

昭和二十六年厚生省令第二十八号

社会福祉法施行規則

社会福祉事業法（昭和二十六年法律第四十五号）第二十九条、第四十一条第二項、第四十七号第二項、第五十六条、第六十九号第一項及び第三項、第七十五条、第八十九条、附則第十二項の規定に基き、社会福祉事業法施行規則を次のように定める。

（令第一条第二号に規定する厚生労働省令で定める障害福祉サービス事業）

第一条 社会福祉法施行令（昭和三十三年政令第百八十五号。以下「令」という。）第一条第二号に規定する厚生労働省令で定める障害福祉サービス事業は、次の各号に掲げるものとす。

一 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律施行規則（平成十八年厚生労働省令第十九号）第六条の十第一項第一号に規定する就労継続支援A型に係る障害福祉サービス事業

二 障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律（平成十七年法律第二百二十三号）第五条第七項に規定する生活介護、同条第十二項に規定する自立訓練、同条第十四項に規定する就労移行支援又は同条第十四項に規定する就労継続支援（前号に掲げるものを除く。）（以下「生活介護等」と総称する。）に係る障害福祉サービス事業であつて、障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律に基づく障害福祉サービス事業の設備及び運営に関する基準（平成十八年厚生労働省令第七十四号）第三十七条（同令第五十五条、第七十条及び第八十八条において準用する場合を含む。）及び第五十七号第一項並びに第八十九条第二項の離島その他の地域であつて厚生労働大臣が定めるもののうち、将来的にも利用者の確保の見込みがあつて都道府県知事が認めるものにおいて実施されるもの

（法第十九条第一項第五号に規定する厚生労働省令で定める者）

第一条の二 社会福祉法（昭和二十六年法律第四十五号。以下「法」という。）第十九条第一項第五号に規定する厚生労働省令で定める者は、次のとおりとする。

一 精神保健福祉士

二 学校教育法（昭和二十二年法律第二十六号）に基づく大学において、法第十九条第一

項第一号に規定する厚生労働大臣の指定する社会福祉に関する科目を修めて、学校教育法第二百二条第二項の規定により大学院への入学を認められた者

（法人が事業活動を支配する法人等）

第一条の三 令第十三条の二第五号の法人が事業活動を支配する法人として厚生労働省令で定めるものは、当該法人が他の法人の財務及び営業又は事業の方針の決定を支配している場合における当該法人（第三項各号において「子法人」という。）とする。

2 令第十三条の二第五号の法人の事業活動を支配する者として厚生労働省令で定めるものは、一の者が当該法人の財務及び営業又は事業の方針の決定を支配している場合における当該一の者とする。

3 前二項に規定する「財務及び営業又は事業の方針の決定を支配している場合」とは、次に掲げる場合をいう。

一 一の者又はその一若しくは二以上の子法人が社員総会その他の団体の財務及び営業又は事業の方針を決定する機関における議決権の過半数を有する場合

二 評議員の総数に対する次に掲げる者の数の割合が百分の五十を超える場合

イ 一の法人又はその一若しくは二以上の子法人の役員（理事、監事、取締役、会計参与、監査役、執行役その他これらに準ずる者をいう。）又は評議員

ロ 一の法人又はその一若しくは二以上の子法人の職員

ハ 当該評議員に就任した日前五年以内にイ又はロに掲げる者であつた者

四 前各号に類する事業（設立認可申請手続）

第二条 法第三十一条の規定により、社会福祉法人を設立しようとする者は、次に掲げる事項を記載した申請書及び定款を所轄庁に提出しなければならない。

一 設立者又は設立代表者の氏名及び住所

二 社会福祉法人の名称及び主たる事務所の所在地

三 設立の趣意

四 評議員となるべき者及び役員（法第三十一条第一項第六号に規定する役員をいう。以下同じ。）となるべき者の氏名

五 評議員となるべき者のうちに、他の各評議員となるべき者（同号括弧書に規定する割合が三分の一を超えない場合に限る。）、同条第七号に規定する者（同号括弧書に規定する半数を超えない場合に限る。）又は同条第八号に規定する者（同号括弧書に規定する半数を超えない場合に限る。）がいないときは、当該他の各評議員の氏名及び当該他の各評議員との関係を説明する事項

六 評議員となるべき者のうちに、他の各役員となるべき者（第二条の八第六号に規定する者（同号括弧書に規定する割合が三分の一を超えない場合に限る。）又は同条第七号に規定する者（同号括弧書に規定する半数を超えない場合に限る。）がいないときは、当該他の各役員（氏名及び当該他の各役員との関係を説明する事項）

七 理事となるべき者のうちに、他の各理事となるべき者（第二条の十各号に規定する者（第六号又は第七号に規定する者について、これらの号に規定する割合が三分の一を超えない場合に限る。）がいないときは、当該他の各理事の氏名及び当該他の各理事との関係を説明する事項）

八 監事となるべき者のうちに、他の各役員となるべき者（第二条の十一第六号に規定する者（同号括弧書に規定する割合が三分の一を超えない場合に限る。）、同条第七号に規定する者（同号括弧書に規定する割合が三分の一を超えない場合に限る。）、同条第八号に規定する者（同号括弧書に規定する半数を超えない場合に限る。）又は同条第九号に規定する者（同号括弧書に規定する割合が三

分の一を超えない場合に限る。）がいないときは、当該他の各役員（氏名及び当該他の各役員との関係を説明する事項）

2 前項の申請書には、次に掲げる書類を添付しなければならない。

一 設立当初において当該社会福祉法人に帰属すべき財産の財産目録及び当該財産が当該社会福祉法人に確実に帰属することを明らかにすることができる書類

二 当該社会福祉法人がその事業を行うため前号の財産目録に記載された不動産以外の不動産の使用を予定しているときは、その使用の権限が当該社会福祉法人に確実に帰属することを明らかにすることができる書類

三 設立当初の会計年度及び次の会計年度における事業計画書及びこれに伴う収支予算書

四 設立代表者を定めたときは、その権限を証明する書類

五 評議員となるべき者及び役員となるべき者の履歴書及び就任承諾書

6 所轄庁は、前二項に規定するもののほか、不動産の価格評価書その他必要な書類の提出を求めることができる。

4 社会福祉法人は、その設立の認可を受けたときは、遅滞なく財産目録記載の財産の移転を受けて、その移転を終了した後一月以内にこれを証明する書類を添付して所轄庁に報告しなければならない。

5 第一項の認可申請書類には、副本一通を添付しなければならない。

（電磁的記録）

第二条の二 法第三十一条第二項に規定する厚生労働省令で定めるものは、磁気ディスクその他これに準ずる方法により一定の情報を確実に記録しておくことができる物をもつて調製するファイルに情報を記録したものである。

（電磁的記録に記録された事項を表示する方法）

第二条の三 次に掲げる規定に規定する厚生労働省令で定める方法は、次に掲げる規定の電磁的記録（法第三十一条第二項に規定する電磁的記録をいう。以下同じ。）に記録された事項を紙面又は映像面に表示する方法とする。

一 法第三十四条の二第二項第三号

二 法第三十四条の二第三項第二号

三 法第四十五条の九第十項において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律

(平成十八年法律第四十八号) 第九十四條
第三項第一号

四 法第四十五條の十一第四項第二号

五 法第四十五條の十五第二項第二号

六 法第四十五條の十九第三項第二号

七 法第四十五條の二十五第二号

八 法第四十五條の三十二第三項第三号

九 法第四十五條の三十二第四項第二号

十 法第四十五條の三十四第三項第二号

十一 法第四十六條の二十第二項第二号

十二 法第四十六條の二十六第二項第三号

十三 法第五十一條第二項第三号

十四 法第五十四條第二項第三号

十五 法第五十四條の四第三項第三号

十六 法第五十四條の七第二項第三号

十七 法第五十四條の十一第三項第三号

(電磁的方法)

第二條の四 法第三十四條の二第二項第四号に規定する電子情報処理組織を使用する方法その他の情報通信の技術を利用する方法であつて厚生労働省令で定めるものは、次に掲げる方法とする。

一 電子情報処理組織を使用する方法のうちイ又はロに掲げるもの

イ 送信者の使用に係る電子計算機と受信者の使用に係る電子計算機とを接続する電気通信回線を通じて送信し、受信者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに記録する方法

ロ 送信者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに記録された情報の内容を電気通信回線を通じて情報の提供を受ける者の閲覧に供し、当該情報の提供を受ける者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに当該情報を記録する方法

二 磁気ディスクその他これに準ずる方法により一定の情報を確実に記録しておくことができる物をもつて調製するファイルに情報を記録したものを交付する方法

2 前項各号に掲げる方法は、受信者がファイルへの記録を出力することにより書面を作成することができるものでなければならぬ。

(電磁的記録の備置きに関する特例)

第二條の五 次に掲げる規定に規定する厚生労働省令で定める措置は、社会福祉法人の使用に係る電子計算機を電気通信回線で接続した電子情報処理組織を使用する方法であつて、当該電子

計算機に備えられたファイルに記録された情報の内容を電気通信回線を通じて社会福祉法人の従たる事務所において使用される電子計算機に備えられたファイルに当該情報を記録するものによる措置とする。

一 法第三十四條の二第四項
二 法第四十五條の十一第三項
三 法第四十五條の三十二第二項
四 法第四十五條の三十四第五項

(最終会計年度における事業活動に係る収益の額の算定方法)

第二條の六 令第十三條の三第一号に規定する収益の額として厚生労働省令で定めるところにより計算した額は、社会福祉法人会計基準(平成二十八年厚生労働省令第七十九号)第七條の二第一項第二号ロ(一)に規定する法人単位事業活動計算書の当年度決算(A)の項サービスタ活動収益計(一)欄に計上した額とする。

(職務を適正に執行することができない者)

第二條の六の二 法第四十條第一項第二号(法第四十四條第一項、第四十六條の六第六項及び第一百五條第二項)において準用する場合を含む。

に規定する厚生労働省令で定めるものは、精神の機能の障害により職務を適正に執行するに当たつて必要な認知、判断及び意思疎通を適切に行うことができない者とする。

(評議員のうち各評議員と特殊の関係がある者)

第二條の七 法第四十條第四項に規定する各評議員と厚生労働省令で定める特殊の関係がある者は、次に掲げる者とする。

一 当該評議員と婚姻の届出をしていないが事実上婚姻関係と同様の事情にある者
二 当該評議員の使用人
三 当該評議員から受ける金銭その他の財産によつて生計を維持している者

四 前二号に掲げる者の配偶者
五 第一号から第三号までに掲げる者の三親等以内の親族であつて、これらの者と生計を一にするもの

六 当該評議員が役員(法人でない団体で代表者又は管理人の定めのあるものにあつては、その代表者又は管理人。以下この号及び次号において同じ)。若しくは業務を執行する社員である他の同一の団体(社会福祉法人を除く。)の役員、業務を執行する社員又は職員(当該評議員及び当該他の同一の団体の役員、

業務を執行する社員又は職員である当該社会福祉法人の評議員の合計数の当該社会福祉法人の評議員の総数のうちに占める割合が、三分の一を超える場合に限る。)

七 他の社会福祉法人の役員又は職員(当該社会福祉法人の評議員となつていない当該社会福祉法人の評議員及び役員を合算し、当該社会福祉法人の評議員の総数の半数を超える場合に限る。)

八 次に掲げる団体の職員のうち国会議員又は地方公共団体の議会の議員でない者(当該団体の職員(国会議員又は地方公共団体の議会の議員である者を除く。))である当該社会福祉法人の評議員の総数のうち占める割合が、三分の一を超える場合に限る。)

イ 国の機関
ロ 地方公共団体
ハ 独立行政法人通則法(平成十一年法律第百三十三号)第二條第一項に規定する独立行政法人

ニ 国立大学法人法(平成十五年法律第百十二号)第二條第一項に規定する国立大学法人又は同条第三項に規定する大学共同利用機関法人

ホ 地方独立行政法人法(平成十五年法律第百十八号)第二條第一項に規定する地方独立行政法人

ヘ 特殊法人(特別の法律により特別の設立行為をもつて設立された法人であつて、総務省設置法(平成十一年法律第九十一号)第四條第一項第九号の規定の適用を受けるものをいう。))又は認可法人(特別の法律により設立され、かつ、その設立に関し行政官庁の認可を要する法人をいう。)

(評議員のうち各役員と特殊の関係がある者)

第二條の八 法第四十條第五項に規定する各役員と厚生労働省令で定める特殊の関係がある者は、次に掲げる者とする。

一 当該役員と婚姻の届出をしていないが事実上婚姻関係と同様の事情にある者
二 当該役員の使用人
三 当該役員から受ける金銭その他の財産によつて生計を維持している者

四 前二号に掲げる者の配偶者
五 第一号から第三号までに掲げる者の三親等以内の親族であつて、これらの者と生計を一にするもの

六 当該役員が役員(法人でない団体で代表者又は管理人の定めのあるものにあつては、その代表者又は管理人。以下この号及び次号において同じ。))若しくは業務を執行する社員である他の同一の団体(社会福祉法人を除く。)の役員、業務を執行する社員又は職員(当該他の同一の団体の役員、業務を執行する社員又は職員である当該社会福祉法人の評議員の総数のうち占める割合が、三分の一を超える場合に限る。)

七 他の社会福祉法人の役員又は職員(当該社会福祉法人の評議員となつていない当該社会福祉法人の評議員及び役員を合算し、当該社会福祉法人の評議員の総数の半数を超える場合に限る。)

八 次に掲げる団体の職員のうち国会議員又は地方公共団体の議会の議員でない者(当該団体の職員(国会議員又は地方公共団体の議会の議員である者を除く。))である当該社会福祉法人の評議員の総数のうち占める割合が、三分の一を超える場合に限る。)

イ 国の機関
ロ 地方公共団体
ハ 独立行政法人通則法(平成十一年法律第百三十三号)第二條第一項に規定する独立行政法人

ニ 国立大学法人法(平成十五年法律第百十二号)第二條第一項に規定する国立大学法人又は同条第三項に規定する大学共同利用機関法人

ホ 地方独立行政法人法(平成十五年法律第百十八号)第二條第一項に規定する地方独立行政法人

ヘ 特殊法人(特別の法律により特別の設立行為をもつて設立された法人であつて、総務省設置法(平成十一年法律第九十一号)第四條第一項第九号の規定の適用を受けるものをいう。))又は認可法人(特別の法律により設立され、かつ、その設立に関し行政官庁の認可を要する法人をいう。)

(補欠の役員)

第二條の九 法第四十三條第二項の規定による補欠の役員については、この条の定めるところによる。

2 法第四十三條第二項の規定により補欠の役員を選任する場合には、次に掲げる事項も併せて決定しなければならない。

一 当該候補者が補欠の役員である旨
二 当該候補者を一人又は二人以上の特定の役員の補欠の役員として選任するときは、その旨及び当該特定の役員の氏名

三 同一の役員(二人以上の役員の補欠として選任した場合にあつては、当該二人以上の役員)につき二人以上の補欠の役員を選任するときは、当該補欠の役員相互間の優先順位

四 補欠の役員について、就任前にその選任の取消しを行う場合があるときは、その旨及び取消しを行うための手続

3 補欠の役員の選任に係る決議が効力を有する期間は、定款に別段の定めがある場合を除き、当該決議後最初に開催する定時評議員会の開始の時までとする。ただし、評議員会の決議によつてその期間を短縮することを妨げない。

(理事のうち各役員と特殊の関係がある者)

第二條の十 法第四十四條第六項に規定する各理事と厚生労働省令で定める特殊の関係がある者は、次に掲げる者とする。
一 当該理事と婚姻の届出をしていないが事実上婚姻関係と同様の事情にある者
二 当該理事の使用人

三 当該理事から受ける金銭その他の財産によつて生計を維持している者

四 前二号に掲げる者の配偶者

五 第一号から第三号までに掲げる者の三親等以内の親族であつて、これらの者と生計を一にするもの

六 当該理事が役員（法人でない団体で代表者又は管理人の定めのあるものにあつては、その代表者又は管理人。以下この号において同じ。）若しくは業務を執行する社員である他の同一の団体（社会福祉法人を除く。）の役員、業務を執行する社員又は職員（当該他の同一の団体の役員、業務を執行する社員又は職員である当該社会福祉法人の理事の総数のうち）に占める割合が、三分の一を超える場合に限り、

七 第二条の七第八号に掲げる団体の職員のうち国会議員又は地方公共団体の議会の議員でない者（当該団体の職員（国会議員又は地方公共団体の議会の議員である者を除く。）である当該社会福祉法人の理事の総数のうち）に占める割合が、三分の一を超える場合に限り、

八 当該理事が役員（法人でない団体で代表者又は管理人の定めのあるものにあつては、その代表者又は管理人。以下この号において同じ。）若しくは業務を執行する社員である他の同一の団体（社会福祉法人を除く。）の役員、業務を執行する社員又は職員（当該他の同一の団体の役員、業務を執行する社員又は職員である当該社会福祉法人の理事の総数のうち）に占める割合が、三分の一を超える場合に限り、

九 当該理事が役員（法人でない団体で代表者又は管理人の定めのあるものにあつては、その代表者又は管理人。以下この号において同じ。）若しくは業務を執行する社員である他の同一の団体（社会福祉法人を除く。）の役員、業務を執行する社員又は職員（当該他の同一の団体の役員、業務を執行する社員又は職員である当該社会福祉法人の理事の総数のうち）に占める割合が、三分の一を超える場合に限り、

十 当該理事が役員（法人でない団体で代表者又は管理人の定めのあるものにあつては、その代表者又は管理人。以下この号において同じ。）若しくは業務を執行する社員である他の同一の団体（社会福祉法人を除く。）の役員、業務を執行する社員又は職員（当該他の同一の団体の役員、業務を執行する社員又は職員である当該社会福祉法人の理事の総数のうち）に占める割合が、三分の一を超える場合に限り、

七 当該理事が役員若しくは業務を執行する社員である他の同一の団体（社会福祉法人を除く。）の役員、業務を執行する社員又は職員（当該理事及び当該他の同一の団体の役員、業務を執行する社員又は職員である当該社会福祉法人の理事の総数のうち）に占める割合が、三分の一を超える場合に限り、

八 他の社会福祉法人の理事又は職員（当該他の社会福祉法人の評議員となつていない当該社会福祉法人の評議員及び役員）の合計数が、当該他の社会福祉法人の評議員の総数の半数を超える場合に限り、

九 第二条の七第八号に掲げる団体の職員のうち国会議員又は地方公共団体の議会の議員でない者（当該団体の職員（国会議員又は地方公共団体の議会の議員である者を除く。）である当該社会福祉法人の理事の総数のうち）に占める割合が、三分の一を超える場合に限り、

十 第二条の七第八号に掲げる団体の職員のうち国会議員又は地方公共団体の議会の議員でない者（当該団体の職員（国会議員又は地方公共団体の議会の議員である者を除く。）である当該社会福祉法人の理事の総数のうち）に占める割合が、三分の一を超える場合に限り、

（招集の決定事項）

第二条の十二 法第四十五条の九第十項において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第百八十一条第一項第三号に規定する厚生労働省令で定める事項は、評議員会の目的である事項に係る議案（当該目的である事項が議案となるものを除く。）の概要（議案が確定していない場合にあつては、その旨）とする。

（社会福祉法施行令に係る電磁的方法）

第二条の十三 令第十三条の六第一項の規定により示すべき電磁的方法の種類及び内容は、次に掲げるものとする。

一 次に掲げる方法のうち送信者が使用するもの

イ 電子情報処理組織を使用する方法のうち次に掲げるもの

(1) 送信者の使用に係る電子計算機と受信者の使用に係る電子計算機とを接続する電気通信回線を通じて送信し、受信者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに記録する方法

(2) 送信者の使用に係る電子計算機に備えられたファイルに記録された情報の内容を電気通信回線を通じて情報の提供を受ける者の閲覧に供し、当該情報の提供を受ける者の使用に係る電子計算機に備え

られたファイルに当該情報を記録する方法

ロ 磁気ディスクその他これに準ずる方法により一定の情報を確実に記録しておくことができる物をもつて調製するファイルに情報を記録したものを交付する方法

二 ファイルへの記録の方法

（理事等の説明義務）

第二条の十四 法第四十五条の十に規定する厚生労働省令で定める場合は、次に掲げる場合とす

一 評議員が説明を求めた事項について説明をするために調査をすることが必要である場合（次に掲げる場合を除く。）

イ 当該評議員が評議員会の日より相当の期間前に当該事項を社会福祉法人に対して通知した場合

ロ 当該事項について説明をするために必要な調査が著しく容易である場合

二 評議員が説明を求めた事項について説明をすることにより社会福祉法人その他の者（当該評議員を除く。）の権利を侵害することとなる場合

三 評議員が当該評議員会において実質的に同一の事項について繰り返して説明を求めるときは、前二号に掲げる場合のほか、評議員が説明を求めた事項について説明をしないことにつき正当な理由がある場合

四 評議員が当該評議員会において実質的に同一の事項について繰り返して説明を求めるときは、前二号に掲げる場合のほか、評議員が説明を求めた事項について説明をしないことにつき正当な理由がある場合

（評議員会の議事録）

第二条の十五 法第四十五条の十一第一項の規定による評議員会の議事録の作成については、この条の定めるところによる。

一 評議員会の議事録は、書面又は電磁的記録をもつて作成しなければならない。

二 評議員会の議事録は、次に掲げる事項を内容とするものでなければならない。

一 評議員会が開催された日時及び場所（当該場所が存在しない評議員、理事、監事又は会計監査人が評議員会に出席した場合における当該出席の方法を含む。）

二 評議員会の議事の経過の要領及びその結果

三 決議を要する事項について特別の利害関係を有する評議員があるときは、当該評議員の氏名

四 次に掲げる規定により評議員会において述べられた意見又は発言があるときは、その意見又は発言の内容の概要

イ 法第四十三条第三項において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第七十四条第一項（法第四十三条第三項において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第七十四条第四項において準用する場合を含む。）

ロ 法第四十三条第三項において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第七十四条第二項（法第四十三条第三項において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第七十四条第四項において準用する場合を含む。）

ハ 法第四十五条の十八第三項において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第百二条

ニ 法第四十五条の十八第三項において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第百五条第三項

ホ 法第四十五条の十九第六項において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第百九条第一項

ヘ 法第四十五条の十九第六項において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第百九条第二項

五 評議員会に出席した評議員、理事、監事又は会計監査人の氏名又は名称

六 評議員会の議長が存するとき、議長の氏名

七 議事録の作成に係る職務を行った者の氏名

四 次の各号に掲げる場合には、評議員会の議事録は、当該各号に定める事項を内容とするものとする。

一 法第四十五条の九第十項において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第百九十四条第一項の規定により評議員会の決議があつたものとみなされた場合

次に掲げる事項

イ 評議員会の決議があつたものとみなされた事項の内容

ロ イの事項の提案をした者の氏名

ハ 評議員会の決議があつたものとみなされた日

二 議事録の作成に係る職務を行った者の氏名

二 法第四十五条の九第十項において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第百九十五条の規定により評議員会への報告

があつたものとみなされた場合 次に掲げる事項

- イ 評議員会への報告があつたものとみなされた事項の内容
 - ロ 評議員会への報告があつたものとみなされた日
 - ハ 議事録の作成に係る職務を行った者の氏名
- (社会福祉法人の業務の適正を確保するための体制)
- 第二条の十六** 法第四十五条の第十三第四項第五号に規定する厚生労働省令で定める体制は、次に掲げる体制とする。
- 一 理事の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制
 - 二 損失の危険の管理に関する規程その他の体制
 - 三 理事の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制
 - 四 職員の仕事の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
 - 五 監事がその職務を補助すべき職員を置くことを求めた場合における当該職員に関する事項
 - 六 前号の職員の理事からの独立性に関する事項
 - 七 監事の第五号の職員に対する指示の実効性の確保に関する事項
 - 八 理事及び職員が監事に報告をするための体制
 - 九 前号の報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制
 - 十 監事の職務の執行について生ずる費用の前払又は償還の手続その他の当該職務の執行について生ずる費用又は債務の処理に係る方針に関する事項
 - 十一 その他監事の監査が実効的に行われることを確保するための体制
- (理事会の議事録)
- 第二条の十七** 法第四十五条の第十四第六項の規定による理事会の議事録の作成については、この条の定めるところによる。
- 2 理事会の議事録は、書面又は電磁的記録をもって作成しななければならない。
 - 3 理事会の議事録は、次に掲げる事項を内容とするものでなければならない。

一 理事会が開催された日時及び場所(当該場所)に存しない理事、監事又は会計監査人が理事会に出席した場合における当該出席の方法を含む。

- 二 理事会が次に掲げるいずれかのものに該当するときは、その旨
- イ 法第四十五条の第十四第二項の規定による理事の請求を受けて招集されたもの
- ロ 法第四十五条の第十四第三項の規定により理事が招集したもの
- ハ 法第四十五条の第十八第三項において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第百一条第二項の規定による監事の請求を受けて招集されたもの
- ニ 法第四十五条の第十八第三項において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第百一条第三項の規定により監事が招集したもの
- 三 理事会の議事の経過の要領及びその結果決議を要する事項について特別の利害関係を有する理事があるときは、当該理事の氏名次に掲げる規定により理事会において述べられた意見又は発言があるときは、その意見又は発言の内容の概要
- イ 法第四十五条の第十六第四項において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第九十二条第二項
- ロ 法第四十五条の第十八第三項において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第百一条
- ハ 法第四十五条の第十八第三項において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第百一条第一項
- 六 法第四十五条の第十四第六項の定款の定めがあるときは、理事長以外の理事であつて、理事会に出席したものの氏名
- 七 理事会に出席した会計監査人の氏名又は名称
- 八 理事会の議長が存するときは、議長の氏名次に各号に掲げる場合には、理事会の議事録は、当該各号に定める事項を内容とするものとする。
- 一 法第四十五条の第十四第九項において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第九十六条の規定により理事会の決議があつたものとみなされた場合
- 次に掲げる事項
- イ 理事会の決議があつたものとみなされた事項の内容

ロ イの事項の提案をした理事の氏名

- ハ 理事会の決議があつたものとみなされた日
 - ニ 議事録の作成に係る職務を行った理事の氏名
 - 二 法第四十五条の第十四第九項において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第九十八条第一項の規定により理事会への報告を要しないものとされた場合
 - 次に掲げる事項
 - イ 理事会への報告を要しないものとされた事項の内容
 - ロ 理事会への報告を要しないものとされた日
 - ハ 議事録の作成に係る職務を行った理事の氏名
- (電子署名)
- 第二条の十八** 次に掲げる規定に規定する厚生労働省令で定める署名又は記名押印に代わる措置は、電子署名とする。
- 一 法第四十五条の第十四第七項
 - 二 法第四十六条の第十八第五項において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第九十五条第四項
- 2 前項に規定する「電子署名」とは、電磁的記録に記録することができる情報について行われる措置であつて、次の要件のいずれにも該当するものをいう。
- 一 当該情報が当該措置を行った者の作成に係るものであることを示すためのものであること。
 - 二 当該情報について改変が行われていないかどうかを確認することができるものであること。
- (監査報告の作成)
- 第二条の十九** 法第四十五条の第十八第一項の規定による監査報告の作成については、この条の定めるところによる。
- 2 監事は、その職務を適切に遂行するため、次に掲げる者との意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めなければならない。
- この場合において、理事又は理事会は、監事の職務の執行のための必要な体制の整備に留意しななければならない。
- 一 当該社会福祉法人の理事及び職員
 - 二 その他監事が適切に職務を遂行するに当たり意思疎通を図るべき者

3 前項の規定は、監事が公正不偏の態度及び独立の立場を保持することができなくなるおそれのある関係の創設及び維持を認めるものと解してはならない。

- 4 監事は、その職務の遂行に当たり、必要に应じ、当該社会福祉法人の他の監事との意思疎通及び情報の交換を図るよう努めなければならない。
- (監事の調査の対象)
- 第二条の二十** 法第四十五条の第十八第三項において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第百二条に規定する厚生労働省令で定めるものは、電磁的記録その他の資料とする。
- (会計監査報告の作成)
- 第二条の二十一** 法第四十五条の第十九第一項の規定による会計監査報告の作成については、この条の定めるところによる。
- 2 会計監査人は、その職務を適切に遂行するため、次に掲げる者との意思疎通を図り、情報の収集及び監査の環境の整備に努めなければならない。ただし、会計監査人が公正不偏の態度及び独立の立場を保持することができなくなるおそれのある関係の創設及び維持を認めるものと解してはならない。
 - 一 当該社会福祉法人の理事及び職員
 - 二 その他会計監査人が適切に職務を遂行するに当たり意思疎通を図るべき者
- (会計監査人が監査する書類)
- 第二条の二十二** 法第四十五条の第十九第二項の厚生労働省令で定める書類は、財産目録(社会福祉法人会計基準第七条の二第一項第一号イに規定する法人単位貸借対照表に対応する項目に限る。)とする。
- (責任の一部免除に係る報酬等の額の算定方法)
- 第二条の二十三** 法第四十五条の第二十第四項において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第百一十三条第一項第二号に規定する厚生労働省令で定める方法により算定される額は、次に掲げる額の合計額とする。
- 一 役員等(法第四十五条の二十第一項に規定する役員等をいう。以下同じ。)がその在職中に報酬、賞与その他の職務執行の対価(当該役員等のうち理事が当該社会福祉法人の職員を兼ねている場合における当該職員の報酬、賞与その他の職務執行の対価を含む。)として社会福祉法人から受け、又は受けるべき財産上の利益(次号に定めるものを除く。)

の額の会計年度（次のイからハまでに掲げる場合の区分に応じ、当該イからハまでに定める日を含む会計年度及びその前の各会計年度に限る。）この合計額（当該会計年度の期間が一年でない場合にあつては、当該合計額を一年当たりの額に換算した額）のうち最も高い額

イ 法第四十五条の二十第四項において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第百三十三条第一項の評議員会の決議を行った場合 当該評議員会の決議の日
ロ 法第四十五条の二十第四項において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第百四十四条第一項の規定による定款の定めに基づいて責任を免除する旨の理事会の決議を行った場合 当該決議のあつた日

ハ 法第四十五条の二十第四項において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第百四十五条第一項の契約を締結した場合 責任の原因となる事実が生じた日（二以上の日がある場合にあつては、最も遅い日）
ニ イに掲げる額をロに掲げる数で除して得た額

イ 次に掲げる額の合計額
（1） 当該役員等が当該社会福祉法人から受けた退職慰労金の額

（2） 当該役員等のうち理事が当該社会福祉法人の職員を兼ねていた場合における当該職員としての退職手当のうち当該役員等のうち理事を兼ねていた期間の職務執行の対価である部分の額
（3） （1）又は（2）に掲げるものの性質を有する財産上の利益の額

ロ 当該役員等がその職に就いていた年数（当該役員等が次に掲げるものに該当する場合における次に定める数が当該年数を超えている場合にあつては、当該数）
（1） 理事長 六
（2） 理事長以外の理事であつて、次に掲げる者 四

（i） 理事会の決議によつて社会福祉法人の業務を執行する理事として選定されたもの

（ii） 当該社会福祉法人の業務を執行した理事（i）に掲げる理事を除く。）
（iii） 当該社会福祉法人の職員

（3） 理事（1）及び（2）に掲げるものを除く。）、監事又は会計監査人 二一
（責任の免除の決議後における退職慰労金等）

第二條の二十四 法第四十五条の二十第四項において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第百三十三条第四項（法第四十五条の二十第四項において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第百四十四条第五項及び第百四十五条第五項において準用する場合を含む。）に規定する厚生労働省令で定める財産上の利益は、次に掲げるものとする。
一 退職慰労金
二 当該役員等のうち理事が当該社会福祉法人の職員を兼ねていたときは、当該職員としての退職手当のうち当該役員等のうち理事を兼ねていた期間の職務執行の対価である部分
三 前二号に掲げるものの性質を有する財産上の利益（事業報告）

第二條の二十五 法第四十五条の二十七第二項の規定による事業報告及びその附属明細書の作成については、この条の定めるところによる。ただし、他の法令に別段の定めがある場合は、この限りでない。
2 事業報告は、次に掲げる事項をその内容としなければならない。
一 当該社会福祉法人の状況に関する重要な事項（計算関係書類（法第四十五条の二十七第二項に規定する計算書類をいう。以下同じ。）及びその附属明細書をいう。以下同じ。）の内容となる事項を除く。）
二 法第四十五条の十三第四項第五号に規定する体制の整備についての決定又は決議があるときは、その決定又は決議の内容の概要及び当該体制の運用状況の概要
3 事業報告の附属明細書は、事業報告の内容を補足する重要な事項をその内容としなければならない。

3 事業報告の附属明細書は、事業報告の内容を補足する重要な事項をその内容としなければならない。
（計算関係書類の監査）
第二條の二十六 法第四十五条の二十八第一項及び第二項の規定による監査（計算関係書類（各会計年度に係るものに限る。以下この条から第二條の三十四までにおいて同じ。）に係るもの

に限る。以下同じ。）については、この条から第二條の三十四までに定めるところによる。
2 前項に規定する監査には、公認会計士法（昭和二十三年法律第百三十三号）第二條第一項に規定する監査のほか、計算関係書類に表示された情報と計算関係書類に表示すべき情報との合致の程度を確かめ、かつ、その結果を利害関係者に伝達するための手続を含むものとする。
（監査報告の内容）
第二條の二十七 監事（会計監査人設置社会福祉法人（法第三十一条第四項に規定する会計監査人設置社会福祉法人をいう。以下同じ。）の監事を除く。以下この条及び次条において同じ。）は、計算関係書類を受領したときは、次に掲げる事項を内容とする監査報告を作成しなければならない。
一 監事の監査の方法及びその内容
二 計算関係書類が当該社会福祉法人の財産、収支及び純資産の増減の状況を全ての重要な点において適正に表示しているかどうかについての意見
三 監査のため必要な調査ができなかつたときは、その旨及びその理由
四 追記情報
五 監査報告を作成した日
2 前項第四号に規定する「追記情報」とは、次に掲げる事項その他の事項のうち、監事の判断に説明を付す必要がある事項又は計算関係書類の内容のうち強調する必要がある事項とする。

一 会計方針の変更
二 重要な偶発事象
三 重要な後発事象
（監査報告の通知期限等）
第二條の二十八 特定監事は、次に掲げる日のいずれか遅い日までに、特定理事に対し、計算関係書類についての監査報告の内容を通知しなければならない。
一 当該計算関係書類のうち計算書類の全部を受領した日から四週間を経過した日
二 当該計算関係書類のうち計算書類の附属明細書を受領した日から一週間を経過した日
三 特定理事及び特定監事が合意により定められた日があるときは、その日
2 計算関係書類については、特定理事が前項の規定による監査報告の内容の通知を受けた日には、監事の監査を受けたものとする。

3 前項の規定にかかわらず、特定監事が第一項の規定により通知をすべき日までに同項の規定による監査報告の内容の通知をしない場合には、当該通知をすべき日に、計算関係書類については、監事の監査を受けたものとみなす。
4 第一項及び第二項に規定する「特定理事」とは、次の各号に掲げる場合の区分に応じ、当該各号に定める者をいう。
一 第一項の規定による通知を受ける理事を定めた場合 当該通知を受ける理事として定められた理事
二 前号に掲げる場合以外の場合 監査を受けるとき計算関係書類の作成に関する職務を行った理事
5 第一項及び第三項に規定する「特定監事」とは、次の各号に掲げる場合の区分に応じ、当該各号に定める者をいう。
一 第一項の規定による監査報告の内容の通知をすべき監事を定めたとき 当該通知をすべき監事として定められた監事
二 前号に掲げる場合以外の場合 全ての監事（計算関係書類の提供）
第二條の二十九 計算関係書類を作成した理事は、会計監査人に対して計算関係書類を提供しようとするときは、監事に対しても計算関係書類を提供しなければならない。
（会計監査報告の内容）
第二條の三十 会計監査人は、計算関係書類を受領したときは、次に掲げる事項を内容とする会計監査報告を作成しなければならない。
一 会計監査人の監査の方法及びその内容
二 計算関係書類（社会福祉法人会計基準第七條の二第一項第一号イに規定する法人単位貸借対照表、同項第二号イ（1）に規定する法人単位資金収支計算書及び同号ロ（1）に規定する法人単位事業活動計算書並びにそれらに対応する附属明細書（同省令第三十条第一項第一号から第三号まで及び第六号並びに第七号に規定する書類に限る。）の項目に限る。以下この条及び第二條の三十二において同じ。）が当該社会福祉法人の財産、収支及び純資産の増減の状況を全ての重要な点において適正に表示しているかどうかについての意見があるときは、次のイからハまでに掲げる意見の区分に応じ、当該イからハまでに定める事項
イ 無限定適正意見 監査の対象となつた計算関係書類が一般に公正妥当と認められる

社会福祉法人会計の慣行に準拠して、当該計算関係書類に係る期間の財産、収支及び純資産の増減の状況を全ての重要な点において適正に表示していると認められる旨
 ロ 除外事項を付した限定付適正意見 監査の対象となつた計算関係書類が除外事項を除き一般に公正妥当と認められる社会福祉法人会計の慣行に準拠して、当該計算関係書類に係る期間の財産、収支及び純資産の増減の状況を全ての重要な点において適正に表示していると認められる旨、除外事項並びに除外事項を付した限定付適正意見とした理由
 ハ 不適正意見 監査の対象となつた計算関係書類が不適正である旨及びその理由
 三 前号の意見がないときは、その旨及びその理由
 四 継続事業の前提に関する事項の注記に係る事項
 五 追記情報
 六 会計監査報告を作成した日
 2 前項第五号に規定する「追記情報」とは、次に掲げる事項その他の事項のうち、会計監査人の判断に説明を付す必要がある事項又は計算関係書類の内容のうち強調する必要がある事項とする。
 一 会計方針の変更
 二 重要な偶発事象
 三 重要な後発事象
 (会計監査人設置社会福祉法人の監事の監査報告の内容)
第二条の三十一 会計監査人設置社会福祉法人の監事は、計算関係書類及び会計監査報告(次条第三項に規定する場合にあつては、計算関係書類)を受領したときは、次に掲げる事項を内容とする監査報告を作成しなければならない。
 一 監事の監査の方法及びその内容
 二 会計監査人の監査の方法又は結果を相当でないとして認めるときは、その旨及びその理由(次条第三項に規定する場合にあつては、会計監査報告を受領していない旨)
 三 重要な後発事象(会計監査報告の内容となつていないものを除く。)
 四 会計監査人の職務の遂行が適正に実施されることを確保するための体制に関する事項
 五 監査のため必要な調査ができなかつたときは、その旨及びその理由

六 監査報告を作成した日
 (会計監査報告の通知期限等)
第二条の三十二 会計監査人は、次に掲げる日のいずれか遅い日までに、特定監事及び特定理事に対し、計算関係書類についての会計監査報告の内容を通知しなければならない。
 一 当該計算関係書類のうち計算書類の全部を受領した日から四週間を経過した日
 二 当該計算関係書類のうち計算書類の附属明細書を受領した日から一週間を経過した日
 三 特定理事、特定監事及び会計監査人の間で合意により定められた日があるときは、その日
 2 計算関係書類については、特定監事及び特定理事が前項の規定による会計監査報告の内容の通知を受けた日に、会計監査人の監査を受けたものとする。
 3 前項の規定にかかわらず、会計監査人が第一項の規定により通知をすべき日までに同項の規定による会計監査報告の内容の通知をしない場合には、当該通知をすべき日に、計算関係書類については、会計監査人の監査を受けたものとみなす。
 4 第一項及び第二項に規定する「特定監事」とは、次の各号に掲げる場合の区分に応じ、当該各号に定める者をいう(第二条の三十四において同じ)。
 一 第一項の規定による通知を受ける理事を定めた場合 当該通知を受ける理事として定められた理事
 二 前号に掲げる場合以外の場合 監査を受けるべき計算関係書類の作成に関する職務を行つた理事
 5 第一項及び第二項に規定する「特定監事」とは、次の各号に掲げる場合の区分に応じ、当該各号に定める者をいう(次条及び第二条の三十四において同じ)。
 一 第一項の規定による会計監査報告の内容の通知を受ける監事として定められた監事
 二 前号に掲げる場合以外の場合 全ての監事(会計監査人の職務の遂行に関する事項)
第二条の三十三 会計監査人は、前条第一項の規定による特定監事に対する会計監査報告の内容の通知に際して、当該会計監査人についての次に掲げる事項(当該事項に係る定めがない場合にあつては、当該事項を定めていない旨)を通知しなければならない。ただし、全ての監事が

既に当該事項を知っている場合は、この限りでない。
 一 独立性に関する事項その他監査に関する法令及び規程の遵守に関する事項
 二 監査、監査に準ずる業務及びこれらに関する業務の契約の受任及び継続の方針に関する事項
 三 会計監査人の職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制に関するその他の事項
 (会計監査人設置社会福祉法人の監事の監査報告の通知期限)
第二条の三十四 会計監査人設置社会福祉法人の特定監事は、次に掲げる日のいずれか遅い日までに、特定理事及び会計監査人に対し、計算関係書類に係る監査報告の内容を通知しなければならない。
 一 会計監査報告を受領した日(第二条の三十三第三項に規定する場合にあつては、同項の規定により監査を受けたものとみなされた日)から一週間を経過した日
 二 特定理事及び特定監事の間で合意により定められた日があるときは、その日
 2 計算関係書類については、特定理事及び会計監査人が前項の規定による監査報告の内容の通知を受けた日に、監事の監査を受けたものとする。
 3 前項の規定にかかわらず、特定監事が第一項の規定により通知をすべき日までに同項の規定による監査報告の内容の通知をしない場合には、当該通知をすべき日に、計算関係書類については、監事の監査を受けたものとみなす。
 (事業報告等の監査)
第二条の三十五 法第四十五条の二十八第一項及び第二項の規定による監査(事業報告及びその附属明細書に係るものに限る。次条及び第二条の三十七において同じ)については、次条及び第二条の三十七に定めるところによる。
 (監査報告の内容)
第二条の三十六 監事は、事業報告及びその附属明細書を受領したときは、次に掲げる事項を内容とする監査報告を作成しなければならない。
 一 監事の監査の方法及びその内容
 二 事業報告及びその附属明細書が法令又は定款に従い当該社会福祉法人の状況を正しく示しているかどうかについての意見
 三 当該社会福祉法人の理事の職務の遂行に関する重大な事実があつたときは、その事実

四 監査のため必要な調査ができなかつたときは、その旨及びその理由
 五 第二条の二十五第二号に掲げる事項(監査の範囲に属さないものを除く。)がある場合において、当該事項の内容が相当でないとして認めるときは、その旨及びその理由
 六 監査報告を作成した日
 (監査報告の通知期限等)
第二条の三十七 特定監事は、次に掲げる日のいずれか遅い日までに、特定理事に対し、事業報告及びその附属明細書についての監査報告の内容を通知しなければならない。
 一 当該事業報告を受領した日から四週間を経過した日
 二 当該事業報告の附属明細書を受領した日から一週間を経過した日
 三 特定理事及び特定監事の間で合意により定められた日があるときは、その日
 2 事業報告及びその附属明細書については、特定理事が前項の規定による監査報告の内容の通知を受けた日に、監事の監査を受けたものとする。
 3 前項の規定にかかわらず、特定監事が第一項の規定により通知をすべき日までに同項の規定による監査報告の内容の通知をしない場合には、当該通知をすべき日に、事業報告及びその附属明細書については、監事の監査を受けたものとみなす。
 4 第一項及び第二項に規定する「特定監事」とは、次の各号に掲げる場合の区分に応じ、当該各号に定める者をいう。
 一 第一項の規定による通知を受ける理事を定めた場合 当該通知を受ける理事として定められた理事
 二 前号に掲げる場合以外の場合 事業報告及びその附属明細書の作成に関する職務を行つた理事
 5 第一項及び第三項に規定する「特定監事」とは、次の各号に掲げる場合の区分に応じ、当該各号に定める者をいう。
 一 第一項の規定による監査報告の内容の通知を受ける監事として定められた監事
 二 前号に掲げる場合以外の場合 全ての監事(計算書類等の評議員への提供)
第二条の三十八 法第四十五条の二十九の規定による計算書類及び事業報告並びに監査報告(会

計監査人設置社会福祉法人にあつては、会計監査報告を含む。以下「提供計算書類等」という。の提供に關しては、この条の定めるところによる。

2 定時評議員会の招集通知（法第四十五条の第十項において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第八十二条第一項又は第二項の規定による通知をいう。次項において同じ。）を次の各号に掲げる方法により行う場合にあつては、提供計算書類等は、当該各号に定める方法により提供しななければならない。
一 書面の提供 次のイ又はロに掲げる場合の区分に応じ、当該イ又はロに定める方法により提供計算書類等が書面をもつて作成されている場合
ロ 提供計算書類等が電磁的記録をもつて作成されている場合 当該電磁的記録に記載された事項を記載した書面の提供

二 提供計算書類等が電磁的記録をもつて作成されている場合 当該電磁的記録に記載された事項を記載した書面の提供
二 電磁的方法による提供 次のイ又はロに掲げる場合の区分に応じ、当該イ又はロに定める方法
イ 提供計算書類等が書面をもつて作成されている場合 当該書面に記載された事項を記載した書面の提供
ロ 提供計算書類等が電磁的記録をもつて作成されている場合 当該電磁的記録に記載された事項を記載した書面の提供

3 理事は、計算書類又は事業報告の内容とすべき事項について、定時評議員会の招集通知を發出した日から定時評議員会の前日までの間に修正をすべき事情が生じた場合における修正後の事項を評議員に周知させる方法を当該招集通知と併せて通知することができる。
（計算書類の承認の特則に関する要件）
第二条の三十九 法第四十五条の三十一に規定する厚生労働省令で定める要件は、次のいずれにも該当することとする。
一 法第四十五条の三十一に規定する計算書類に於いての会計監査報告の内容に第二条の三十第一項第二号イに定める事項が含まれていないこと。

二 前号の会計監査報告に係る監査報告の内容として会計監査人の監査の方法又は結果を相当でないとして認める意見がないこと。
三 法第四十五条の三十一に規定する計算書類が第二条の三十四第三項の規定により監査を受けたものとみなされたものでないこと。

（財産目録）

第二条の四十 法第四十五条の三十四第一項第一号に掲げる財産目録は、定時評議員会（法第四十五条の三十一の規定の適用がある場合に於ては、理事会）の承認を受けなければならない。
2 法第四十五条の二十八から第四十五条の三十一まで及び第二条の二十六から第三十九条までの規定は、社会福祉法人が前項の財産目録に係る同項の承認を受けるための手続について準用する。
（事業の概要等）

第二条の四十一 法第四十五条の三十四第一項第四号に規定する厚生労働省令で定める事項は、次のとおりとする。
一 当該社会福祉法人の主たる事務所の所在地及び電話番号その他当該社会福祉法人に関する基本情報
二 当該終了した会計年度の翌会計年度（以下この条において「会計年度」という。）の初日における評議員会の状況
三 当該会計年度の初日における理事の状況
四 当該会計年度の初日における監事の状況
五 当該終了した会計年度（以下この条において「前会計年度」という。）及び当該会計年度における会計監査人の状況
六 当該会計年度の初日における職員の状況
七 前会計年度における評議員会の状況
八 前会計年度における理事会の状況
九 前会計年度における監事の監査の状況
十 前会計年度における会計監査の状況
十一 前会計年度における事業等の概要
十二 前会計年度末における社会福祉充実残額（法第五十五条の二第三項第四号に規定する社会福祉充実残額をいう。並びに社会福祉充実計画（同条第一項に規定する社会福祉充実計画をいう。以下同じ。）の策定の状況及びその進捗の状況
十三 当該社会福祉法人に関する情報の公表等の状況
十四 第十二号に規定する社会福祉充実残額の算定の根拠
十五 事業計画を作成する旨を定款で定めている場合に於ては、事業計画
十六 その他必要な事項
（報酬等の支給の基準に定める事項）

第二条の四十二 法第四十五条の三十五第一項に規定する理事、監事及び評議員（以下この条において「理事等」という。）に対する報酬等（法第四十五条の三十四第一項第三号に規定する報酬等を含む。以下この条において同じ。）の支給の基準においては、理事等の勤務形態に応じた報酬等の区分及びその額の算定方法並びに支給の方法及び形態に関する事項を定めるものとする。
（定款変更認可申請手続）
第三条 社会福祉法人は、法第四十五条の三十六第二項の規定により定款の変更の認可を受けようとするときは、定款変更の条項及び理由を記載した申請書に次に掲げる書類を添付して所轄庁に提出しなければならない。
一 定款に定める手続を経たことを証明する書類
二 変更後の定款
三 前項の定款の変更が、当該社会福祉法人が新たに事業を営む場合に係るものであるときは、同項各号のほか、次に掲げる書類を添付して所轄庁に申請しなければならない。
一 当該事業の用に供する財産及びその価格を記載した書類並びにその権利の所属を明らかにすることができる書類
二 当該事業を行うため前号の書類に記載された不動産以外の不動産の使用を予定しているときは、その使用の権限の所属を明らかにすることができる書類
三 当該事業について、その開始の日の属する会計年度及び次の会計年度における事業計画書及びこれに伴う収支予算書
3 第一項の定款の変更が、当該社会福祉法人が従来経営していた事業を廃止する場合に係るものであるときは、同項各号のほか、廃止する事業の用に供している財産の処分方法を記載した書類を添付して所轄庁に申請しなければならない。
4 第二条第三項及び第五項の規定は、第一項の場合に準用する。
第四条 法第四十五条の三十六第二項に規定する厚生労働省令で定める事項は、次のとおりとする。
一 法第三十一条第一項第四号に掲げる事項
二 法第三十一条第一項第九号に掲げる事項（基本財産の増加に限る。）
三 法第三十一条第一項第十五号に掲げる事項
2 前条第一項の規定は、法第四十五条の三十六第四項の規定により定款の変更の届出をする場

合に準用する。この場合において、前条第一項中「申請書」とあるのは、「届出書」と読み替えるものとする。
（解散の認可又は認定申請手続）
第五条 社会福祉法人は、法第四十六条第二項の規定により、解散の認可又は認定を受けようとするときは、解散の理由及び残余財産の処分方法を記載した申請書に次に掲げる書類を添付して所轄庁に提出しなければならない。
一 法第四十六条第一項第一号の手続又は定款に定める手続を経たことを証明する書類
二 財産目録及び貸借対照表
三 負債があるときは、その負債を証明する書類
類

2 第二条第三項及び第五項の規定は、前項の場合に準用する。
（清算人設置法人以外の清算人の業務の適正を確保するための体制）
第五条の二 法第四十六条の十第三項第三号に規定する厚生労働省令で定める体制は、次に掲げる体制とする。
一 清算人の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制
二 損失の危険の管理に関する規程その他の体制
三 職員の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
2 清算人が二人以上ある清算法人（法第四十六条の四に規定する清算法人をいう。以下同じ。）である場合には、前項に規定する体制には、業務の決定が適正に行われることを確保するための体制を含むものとする。
3 監事設置清算法人（法第四十六条の十一第六項に規定する監事設置清算法人をいう。以下同じ。）以外の清算法人である場合には、第一項に規定する体制には、清算人が評議員に報告すべき事項の報告をするための体制を含むものとする。
4 監事設置清算法人である場合には、第一項に規定する体制には、次に掲げる体制を含むものとする。
一 監事がその職務を補助すべき職員を置くことを求めた場合における当該職員に関する体制
二 前号の職員の清算人からの独立性に関する事項

二 変更後の定款
二 前項の定款の変更が、当該社会福祉法人が新たに事業を営む場合に係るものであるときは、同項各号のほか、次に掲げる書類を添付して所轄庁に申請しなければならない。
一 当該事業の用に供する財産及びその価格を記載した書類並びにその権利の所属を明らかにすることができる書類
二 当該事業を行うため前号の書類に記載された不動産以外の不動産の使用を予定しているときは、その使用の権限の所属を明らかにすることができる書類
三 当該事業について、その開始の日の属する会計年度及び次の会計年度における事業計画書及びこれに伴う収支予算書
3 第一項の定款の変更が、当該社会福祉法人が従来経営していた事業を廃止する場合に係るものであるときは、同項各号のほか、廃止する事業の用に供している財産の処分方法を記載した書類を添付して所轄庁に申請しなければならない。
4 第二条第三項及び第五項の規定は、第一項の場合に準用する。
第四条 法第四十五条の三十六第二項に規定する厚生労働省令で定める事項は、次のとおりとする。
一 法第三十一条第一項第四号に掲げる事項
二 法第三十一条第一項第九号に掲げる事項（基本財産の増加に限る。）
三 法第三十一条第一項第十五号に掲げる事項
2 前条第一項の規定は、法第四十五条の三十六第四項の規定により定款の変更の届出をする場

合に準用する。この場合において、前条第一項中「申請書」とあるのは、「届出書」と読み替えるものとする。
（解散の認可又は認定申請手続）
第五条 社会福祉法人は、法第四十六条第二項の規定により、解散の認可又は認定を受けようとするときは、解散の理由及び残余財産の処分方法を記載した申請書に次に掲げる書類を添付して所轄庁に提出しなければならない。
一 法第四十六条第一項第一号の手続又は定款に定める手続を経たことを証明する書類
二 財産目録及び貸借対照表
三 負債があるときは、その負債を証明する書類
類

2 第二条第三項及び第五項の規定は、前項の場合に準用する。
（清算人設置法人以外の清算人の業務の適正を確保するための体制）
第五条の二 法第四十六条の十第三項第三号に規定する厚生労働省令で定める体制は、次に掲げる体制とする。
一 清算人の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制
二 損失の危険の管理に関する規程その他の体制
三 職員の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
2 清算人が二人以上ある清算法人（法第四十六条の四に規定する清算法人をいう。以下同じ。）である場合には、前項に規定する体制には、業務の決定が適正に行われることを確保するための体制を含むものとする。
3 監事設置清算法人（法第四十六条の十一第六項に規定する監事設置清算法人をいう。以下同じ。）以外の清算法人である場合には、第一項に規定する体制には、清算人が評議員に報告すべき事項の報告をするための体制を含むものとする。
4 監事設置清算法人である場合には、第一項に規定する体制には、次に掲げる体制を含むものとする。
一 監事がその職務を補助すべき職員を置くことを求めた場合における当該職員に関する体制
二 前号の職員の清算人からの独立性に関する事項

二 変更後の定款
二 前項の定款の変更が、当該社会福祉法人が新たに事業を営む場合に係るものであるときは、同項各号のほか、次に掲げる書類を添付して所轄庁に申請しなければならない。
一 当該事業の用に供する財産及びその価格を記載した書類並びにその権利の所属を明らかにすることができる書類
二 当該事業を行うため前号の書類に記載された不動産以外の不動産の使用を予定しているときは、その使用の権限の所属を明らかにすることができる書類
三 当該事業について、その開始の日の属する会計年度及び次の会計年度における事業計画書及びこれに伴う収支予算書
3 第一項の定款の変更が、当該社会福祉法人が従来経営していた事業を廃止する場合に係るものであるときは、同項各号のほか、廃止する事業の用に供している財産の処分方法を記載した書類を添付して所轄庁に申請しなければならない。
4 第二条第三項及び第五項の規定は、第一項の場合に準用する。
第四条 法第四十五条の三十六第二項に規定する厚生労働省令で定める事項は、次のとおりとする。
一 法第三十一条第一項第四号に掲げる事項
二 法第三十一条第一項第九号に掲げる事項（基本財産の増加に限る。）
三 法第三十一条第一項第十五号に掲げる事項
2 前条第一項の規定は、法第四十五条の三十六第四項の規定により定款の変更の届出をする場

- 三 監事の第一号の職員に対する指示の実効性の確保に関する事項
- 四 清算人及び職員が監事に報告をするための体制その他の監事への報告に関する体制
- 五 前号の報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制
- 六 監事の職務の執行について生ずる費用の前払又は償還の手続その他の当該職務の執行について生ずる費用又は債務の処理に係る方針に関する事項
- 七 その他監事の監査が実効的に行われることを確保するための体制
(清算人会設置法人の業務の適正を確保するための体制)
- 第五條の三 法第四十六条の十七第六項第五号に規定する厚生労働省令で定める体制は、次に掲げる体制とする。
 - 一 清算人の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制
 - 二 損失の危険の管理に関する規程その他の体制
 - 三 職員の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
 - 四 清算人会設置法人（法第四十六条の六第七項に規定する清算人会設置法人をいう。次項において同じ。）が、監事設置清算人以外のものである場合には、前項に規定する体制には、清算人が評議員に報告すべき事項の報告をするための体制を含むものとする。
 - 五 清算人会設置法人が、監事設置清算人である場合には、第一項に規定する体制には、次に掲げる体制を含むものとする。
 - 一 監事がその職務を補助すべき職員を置くことを求めた場合における当該職員に関する体制
 - 二 前号の職員の清算人からの独立性に関する事項
 - 三 監事の第一号の職員に対する指示の実効性の確保に関する事項
 - 四 清算人及び職員が監事に報告をするための体制その他の監事への報告に関する体制
 - 五 前号の報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制
 - 六 監事の職務の執行について生ずる費用の前払又は償還の手続その他の当該職務の執行に

- ついて生ずる費用又は債務の処理に係る方針に関する事項
- 七 その他監事の監査が実効的に行われることを確保するための体制
(清算人会の議事録)
- 第五條の四 法第四十六条の十八第五項において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第九十五条第三項の規定による清算人会の議事録の作成については、この条の定めるところによる。
 - 2 清算人会の議事録は、書面又は電磁的記録をもって作成しなければならない。
 - 3 清算人会の議事録は、次に掲げる事項を内容とするものでなければならない。
 - 一 清算人会が開催された日時及び場所（当該場所に存しない清算人、監事又は評議員が清算人会に出席した場合における当該出席の方針を含む。）
 - 二 清算人会が次に掲げるいずれかのもの当該当するときは、その旨
 - イ 法第四十六条の十八第二項の規定による清算人の請求を受けて招集されたもの
 - ロ 法第四十六条の十八第三項の規定により清算人が招集したもの
 - ハ 法第四十六条の十九第一項の規定による評議員の請求を受けて招集されたもの
 - ニ 法第四十六条の十九第三項において準用する法第四十六条の十八第三項の規定により評議員が招集したもの
 - ホ 法第四十六条の二十一及び令第十三条の十七の規定により読み替えて適用する法第四十五条の十八第三項において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第一百一条第二項の規定による監事の請求を受けて招集されたもの
 - イ 法第四十六条の二十一及び令第十三条の十七の規定により読み替えて適用する法第四十五条の十八第三項において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第一百一条第三項の規定により監事が招集したもの
 - 三 清算人会の議事の経過の要領及びその結果を有する清算人があるときは、その氏名
 - 四 決議を要する事項について特別の利害関係
 - 五 次に掲げる規定により清算人会において述べられた意見又は発言があるときは、その意見又は発言の内容の概要

- イ 法第四十六条の二十一及び令第十三条の十七の規定により読み替えて適用する法第四十五条の十八第三項において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第一百一条第二項
- ロ 法第四十六条の二十一及び令第十三条の十七の規定により読み替えて適用する法第四十五条の十八第三項において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第一百一条第一項
- ハ 法第四十六条の十七第十項において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第九十二条第二項
- ニ 法第四十六条の十九第四項
- 六 法第四十六条の十八第五項において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第九十五条第三項の定款の定めがあるときは、代表清算人（法第四十六条の十一第一項に規定する代表清算人をいう。）以外の清算人であつて、清算人会に出席したものの氏名
- 七 清算人会に出席した評議員の氏名又は名称
- 八 清算人会の議長が存するときは、議長の氏名
- 4 次の各号に掲げる場合には、清算人会の議事録は、当該各号に定める事項を内容とするものとする。
 - 一 法第四十六条の十八第五項において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第九十六条の規定により清算人会の決議があつたものとみなされた場合 次に掲げる事項
 - イ 清算人会の決議があつたものとみなされた事項の内容
 - ロ イの事項の提案をした清算人の氏名
 - ハ 清算人会の決議があつたものとみなされた日
 - 二 議事録の作成に係る職務を行った清算人の氏名
 - ニ 法第四十六条の十八第六項において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第九十八条第一項の規定により清算人会への報告を要しないものとされた場合 次に掲げる事項
 - イ 清算人会への報告を要しないものとされた事項の内容
 - ロ 清算人会への報告を要しないものとされた日

- ハ 議事録の作成に係る職務を行った清算人の氏名
- 第五條の五 法第四十六条の二十二第一項の規定による財産目録の作成については、この条の定めるところによる。
 - 2 前項の財産目録に計上すべき財産については、その処分価格を付すことが困難な場合を除き、法第四十六条の三各号に掲げる場合に該当することとなつた日における処分価格を付さなければならぬ。この場合において、清算法人の会計帳簿については、財産目録に付された価格を取得価額とみなす。
 - 3 第一項の財産目録は、次に掲げる部に区分して表示しなければならない。この場合において、第一号及び第二号に掲げる部は、その内容を示す適当な名称を付した項目に細分することができる。
 - 一 資産
 - 二 負債
 - 三 正味資産
(清算開始時の貸借対照表)
 - 第五條の六 法第四十六条の二十二第一項の規定による貸借対照表の作成については、この条の定めるところによる。
 - 2 前項の貸借対照表は、法第四十六条の二十二第一項の財産目録に基づき作成しなければならない。
 - 3 第一項の貸借対照表は、次に掲げる部に区分して表示しなければならない。この場合において、第三号に掲げる部については、純資産を示す適当な名称を付すことができる。
 - 一 資産
 - 二 負債
 - 三 純資産
 - 4 前項各号に掲げる部は、適当な項目に細分することができる。この場合において、当該各項目については、資産、負債又は純資産を示す適当な名称を付さなければならない。
 - 5 処分価格を付すことが困難な資産がある場合には、第一項の貸借対照表は、当該資産に係る財産評価の方針を注記しなければならない。（各清算事務年度に係る貸借対照表）
 - 第五條の七 法第四十六条の二十四第一項に規定する貸借対照表は、各清算事務年度（同項に規定する各清算事務年度をいう。第五條の九第二

項において同じ。)に係る会計帳簿に基づき作成しなければならない。

2 前条第三項及び第四項の規定は、前項の貸借対照表について準用する。

3 法第四十六条の二十四第一項に規定する貸借対照表の附属明細書は、貸借対照表の内容を補足する重要な事項をその内容としなければならない。

第五條の八 法第四十六条の二十四第一項に規定する事務報告は、清算に関する事務の執行の状況に係る重要な事項をその内容としなければならない。

2 法第四十六条の二十四第一項に規定する事務報告の附属明細書は、事務報告の内容を補足する重要な事項をその内容としなければならない。

第五條の九 法第四十六条の二十五第一項の規定による監査については、この条の定めるところによる。

2 清算法人の監事は、各清算事務年度に係る貸借対照表及び事務報告並びにこれらの附属明細書を受領したときは、次に掲げる事項を内容とする監査報告を作成しなければならない。

一 監事の監査の方法及びその内容

二 各清算事務年度に係る貸借対照表及びその附属明細書が当該清算法人の財産の状況を全ての重要な点において適正に表示しているかどうかについての意見

三 各清算事務年度に係る事務報告及びその附属明細書が法令又は定款に従い当該清算法人の状況を正しく示しているかどうかについての意見

四 清算人の職務の遂行に関し、不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実があつたときは、その事実

五 監査のため必要な調査ができなかつたときは、その旨及びその理由

六 監査報告を作成した日

3 特定監事は、第五條の七第一項の貸借対照表及び前条第一項の事務報告の全部を受領した日から四週間を経過した日(特定清算人(次の各号に掲げる場合の区分に応じ、当該各号に定める者)をいう。以下この条において同じ。)及び特定監事の間で合意した日がある場合にあっては、当該日)までに、特定清算人に対して、監査報告の内容を通知しなければならない。

1 この項の規定による通知を受ける清算人として定められた場合 当該通知を受ける清算人として定められた清算人

2 前号に掲げる場合以外の場合 第五條の七第一項の貸借対照表及び前条第一項の事務報告並びにこれらの附属明細書の作成に関する職務を行った清算人

3 第五條の七第一項の貸借対照表及び前条第一項の事務報告並びにこれらの附属明細書については、特定清算人が前項の規定による監査報告の内容の通知を受けた日に、監事の監査を受けたものとする。

5 前項の規定にかかわらず、特定監事が第三項の規定により通知をすべき日までに同項の規定による監査報告の内容の通知をしない場合には、当該通知をすべき日に、第五條の七第一項の貸借対照表及び前条第一項の事務報告並びにこれらの附属明細書については、監事の監査を受けたものとみなす。

6 第三項及び前項に規定する「特定監事」とは、次の各号に掲げる場合の区分に応じ、当該各号に定める者とする。

一 二人以上の監事が存する場合において、第三項の規定による監査報告の内容の通知をすべき監事を定められたとき 当該通知をすべき監事として定められた監事

二 二人以上の監事が存する場合において、第三項の規定による監査報告の内容の通知をすべき監事を定めていないとき 全ての監事

三 前二号に掲げる場合以外の場合 監事

第五條の十 法第四十七条の二第一項の規定により作成すべき決算報告は、次に掲げる事項を内容とするものでなければならない。この場合において、第一号及び第二号に掲げる事項については、適切な項目に細分することができる。

一 債権の取立て、資産の処分その他の行為によつて得た収入の額

二 債務の弁済、清算に係る費用の支払その他の行為による費用の額

三 残余財産の額(支払税額がある場合には、その税額及び当該税額を控除した後の財産の額)

2 前項第三号に掲げる事項については、残余財産の引渡しを完了した日を注記しなければならない。

(吸収合併契約)

第五條の十一 法第四十九条に規定する厚生労働省令で定める事項は、次のとおりとする。

一 吸収合併がその効力を生ずる日

二 吸収合併消滅社会福祉法人(法第四十九条に規定する吸収合併消滅社会福祉法人をいう。以下同じ。)の職員の処遇

(合併認可申請手続)

第六條 社会福祉法人は、法第五十条第三項又は法第五十四条の六第二項の規定により、吸収合併(法第四十九条に規定する吸収合併をいう。以下同じ。)又は新設合併(法第五十四条の五に規定する新設合併をいう。以下同じ。)の認可を受けようとするときは、吸収合併又は新設合併の理由を記載した申請書に次に掲げる書類を添付して所轄庁に提出しなければならない。

一 法第五十二条及び法第五十四条の二第一項又は法第五十四条の八の手続又は定款に定める手続を経たことを証明する書類

二 吸収合併存続社会福祉法人(法第四十九条に規定する吸収合併存続社会福祉法人をいう。以下同じ。)又は新設合併設立社会福祉法人(法第五十四条の五第二号に規定する新設合併設立社会福祉法人をいう。以下同じ。)の定款

三 吸収合併消滅社会福祉法人(法第四十九条に規定する吸収合併消滅社会福祉法人をいう。以下同じ。)又は新設合併消滅社会福祉法人(法第五十四条の五第一号に規定する新設合併消滅社会福祉法人をいう。以下同じ。)に係る次の書類

イ 財産目録及び貸借対照表

ロ 負債があるときは、その負債を証明する書類

四 吸収合併存続社会福祉法人又は新設合併設立社会福祉法人に係る次の書類

イ 財産目録

ロ 合併の日の属する会計年度及び次の会計年度における事業計画書及びこれに伴う収支予算書

ハ 評議員となるべき者及び役員となるべき者の履歴書及び就任承諾書(吸収合併存続社会福祉法人については、引き続き評議員となるべき者又は引き続き役員となるべき者の就任承諾書を除く。)

ニ 評議員となるべき者のうちに、他の各評議員となるべき者について、第二條の七第六号に規定する者(同号括弧書に規定する割合が三分の一を超えない場合に限る。)、同条第七号に規定する者(同号括弧書に規定する割合が三分の一を超えない場合に限る。)

定する半数を超えない場合に限る。)又は同条第八号に規定する者(同号括弧書に規定する割合が三分の一を超えない場合に限る。)がいるときは、当該他の各評議員の氏名及び当該他の各評議員との関係を説明する事項を記載した書類

ホ 評議員となるべき者のうちに、他の各役員となるべき者について、第二條の八第六号に規定する者(同号括弧書に規定する割合が三分の一を超えない場合に限る。)、又は同条第七号に規定する者(同号括弧書に規定する半数を超えない場合に限る。)がいるときは、当該他の各役員との関係を説明する事項を記載した書類

ヘ 理事となるべき者のうちに、他の各理事となるべき者について、第二條の十各号に規定する者(第六号又は第七号に規定する者については、これらの号に規定する割合が三分の一を超えない場合に限る。)がいるときは、当該他の各理事の氏名及び当該他の各理事との関係を説明する事項を記載した書類

ト 監事となるべき者のうちに、他の各役員となるべき者について、第二條の十一第六号に規定する者(同号括弧書に規定する割合が三分の一を超えない場合に限る。)、同条第七号に規定する者(同号括弧書に規定する割合が三分の一を超えない場合に限る。)、同条第八号に規定する者(同号括弧書に規定する半数を超えない場合に限る。)、同条第九号に規定する者(同号括弧書に規定する割合が三分の一を超えない場合に限る。)、当該他の各役員との関係を説明する事項を記載した書類

2 第二條第三項及び第五項の規定は、前項の場合に準用する。

(吸収合併消滅社会福祉法人の事前開示事項)

第六條の二 法第五十一条に規定する厚生労働省令で定める事項は、次のとおりとする。

一 吸収合併存続社会福祉法人(法第四十九条に規定する吸収合併存続社会福祉法人をいう。以下同じ。)の定款の定め

二 吸収合併存続社会福祉法人についての次に掲げる事項

イ 最終会計年度(各会計年度に係る法第四十五条の二十七第二項に規定する計算書類

につき法第四十五条の三十第二項の承認（法第四十五条の三十一前段に規定する場合にあつては、法第四十五条の二十八第三項の承認）を受けた場合における当該各会計年度のうち最も遅いものをいう。以下同じ。）に係る監査報告等（各会計年度に係る計算書類、事業報告及び監査報告（法第四十五条の二十八第二項の規定の適用がある場合にあつては、会計監査報告を含む）をいう。以下同じ。）の内容（最終会計年度がない場合にあつては、吸収合併存続社会福祉法人の成立の日における貸借対照表の内容）

最終会計年度の末日（最終会計年度がない場合にあつては、吸収合併存続社会福祉法人の成立の日）後に重要な財産の処分、重大な債務の負担その他の法人財産（社会福祉法人の財産をいう。以下同じ。）の状況に重要な影響を与える事象が生じたときは、その内容（法第五十二条の評議員会の日の二週間前（法第四十五条の九第十項において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第九十四条第一項の場合にあつては、同項の提案があつた日。以下同じ。）後吸収合併の登記の日までの間に新たな最終会計年度が存することとなる場合にあつては、当該新たな最終会計年度の末日後に生じた事象の内容に限る。）

四
イ 吸収合併消滅社会福祉法人において最終会計年度の末日（最終会計年度がない場合にあつては、吸収合併消滅社会福祉法人の成立の日）後に重要な財産の処分、重大な債務の負担その他の法人財産の状況に重要な影響を与える事象が生じたときは、その内容（法第五十二条の評議員会の日の二週間前（法第四十五条の九第十項において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第九十四条第一項の場合にあつては、同項の提案があつた日。以下同じ。）後吸収合併の登記の日までの間に新たな最終会計年度が存することとなる場合にあつては、当該新たな最終会計年度の末日後に生じた事象の内容に限る。）

項第四号の規定により吸収合併について異議を述べることができる債権者に対して負担する債務に限る。）の履行の見込みに関する事項

五 法第五十二条の評議員会の日の二週間前（日後、前各号に掲げる事項に変更が生じたときは、変更後の当該事項）

第六条の三 法第五十三条第一項第三号に規定する厚生労働省令で定めるものは、同項の規定による公告の日又は同項の規定による催告の日（いずれか早い日）における次の各号に掲げる場合の区分に応じ、当該各号に定めるものとする。

- 一 公告対象法人（法第五十三条第一項第三号の吸収合併消滅社会福祉法人及び吸収合併存続社会福祉法人をいう。次号において同じ。）につき最終会計年度がない場合 その旨
- 二 公告対象法人が清算法人である場合 その旨
- 三 前二号に掲げる場合以外の場合 最終会計年度に係る貸借対照表の要旨の内容
- 2 前項第三号の貸借対照表の要旨に係る事項の金額は、百万円単位又は十億円単位をもって表示するものとする。

3 前項の規定にかかわらず、社会福祉法人の財産の状態を的確に判断することができなくなるおそれがある場合には、第一項第三号の貸借対照表の要旨に係る事項の金額は、適切な単位をもつて表示しなければならない。

第六条の四 法第五十四条第一項に規定する厚生労働省令で定める事項は、次のとおりとする。

- 一 吸収合併消滅社会福祉法人（清算法人を除く。）について次に掲げる事項
- イ 最終会計年度に係る監査報告等の内容（最終会計年度がない場合にあつては、吸収合併消滅社会福祉法人の成立の日における貸借対照表の内容）
- ロ 最終会計年度の末日（最終会計年度がない場合にあつては、吸収合併消滅社会福祉法人の成立の日）後に重要な財産の処分、重大な債務の負担その他の法人財産の状況に重要な影響を与える事象が生じたときは、その内容（法第五十四条の二第一項の評議員会の日の二週間前（法第四十五条の九第十項において準用する一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第九十四

四 吸収合併消滅社会福祉法人（清算法人に限る。）が法第四十六条の二十二第一項の規定により作成した貸借対照表

三 吸収合併存続社会福祉法人についての次に掲げる事項

- イ 吸収合併存続社会福祉法人において最終会計年度の末日（最終会計年度がない場合にあつては、吸収合併存続社会福祉法人の成立の日）後に重要な財産の処分、重大な債務の負担その他の法人財産の状況に重要な影響を与える事象が生じたときは、その内容（法第五十四条の二第二項の評議員会の日の二週間前（日後吸収合併の登記の日までの間に新たな最終会計年度が存することとなる場合にあつては、当該新たな最終会計年度の末日後に生じた事象の内容に限る。）
- ロ 吸収合併存続社会福祉法人において最終会計年度がないときは、吸収合併存続社会福祉法人の成立の日における貸借対照表

四 吸収合併の登記の日以後における吸収合併存続社会福祉法人の債務（法第五十四条の三第一項第四号の規定により吸収合併について異議を述べることができる債権者に対して負担する債務に限る。）の履行の見込みに関する事項

五 法第五十四条の二第二項の評議員会の日の二週間前（日後吸収合併の登記の日までの間に、前各号に掲げる事項に変更が生じたときは、変更後の当該事項）

第六条の五 法第五十四条の二第二項に規定する債務の額として厚生労働省令で定める額は、第一号に掲げる額から第二号に掲げる額を減じて得た額とする。

- 一 吸収合併の直後に吸収合併存続社会福祉法人の貸借対照表の作成があつたものとする場合における当該貸借対照表の負債の部に計上すべき額
- 二 吸収合併の直前に吸収合併存続社会福祉法人の貸借対照表の作成があつたものとする場

合における当該貸借対照表の負債の部に計上すべき額

2 法第五十四条の二第二項に規定する資産の額として厚生労働省令で定める額は、第一号に掲げる額から第二号に掲げる額を減じて得た額とする。

一 吸収合併の直後に吸収合併存続社会福祉法人の貸借対照表の作成があつたものとする場合における当該貸借対照表の資産の部に計上すべき額

- 二 吸収合併の直前に吸収合併存続社会福祉法人の貸借対照表の作成があつたものとする場合における当該貸借対照表の資産の部に計上すべき額

第六条の六 法第五十四条の三第一項第三号に規定する厚生労働省令で定めるものは、同項の規定による公告の日又は同項の規定による催告の日（いずれか早い日）における次の各号に掲げる場合の区分に応じ、当該各号に定めるものとする。

- 一 公告対象法人（法第五十四条の三第一項第三号の吸収合併存続社会福祉法人及び吸収合併消滅社会福祉法人をいう。次号において同じ。）につき最終会計年度がない場合 その旨
- 二 公告対象法人が清算法人である場合 その旨
- 三 前二号に掲げる場合以外の場合 最終会計年度に係る貸借対照表の要旨の内容
- 2 第六条の三第二項及び第三項の規定は、前項第三号の貸借対照表の要旨について準用する。

第六条の七 法第五十四条の四第一項に規定する厚生労働省令で定める事項は、次のとおりとする。

- 一 吸収合併の登記の日
- 二 吸収合併消滅社会福祉法人における法第五十三条の規定による手続の経過
- 三 吸収合併存続社会福祉法人における法第五十四条の三の規定による手続の経過
- 四 吸収合併により吸収合併存続社会福祉法人が吸収合併消滅社会福祉法人から承継した重要な権利義務に関する事項
- 五 法第五十一条第一項の規定により吸収合併消滅社会福祉法人が備え置いた書面又は電磁

二 その他必要な書類

(承認社会福祉充実計画の終了の承認の申請)

第六条の二十一 法第五十五条の四に規定する承認社会福祉充実計画の終了の承認の申請は、申請書に、承認社会福祉充実計画に記載された事業を行うことが困難である理由を記載した書類を添付して所轄庁に提出することによつて行うものとする。

(様式)

第六条の二十二 第六条の十三、第六条の十八、第六条の二十及び前条に規定する書類は、書面又は電磁的記録をもつて作成しななければならない。

2 前項に掲げる書類の様式は、厚生労働省社会・援護局長が定める。

(身分を示す証明書)

第七条 法第五十六条第一項の規定により立入検査をする職員は、身分を示す証明書、別記様式によるものとする。

(助成申請手続)

第八条 法第五十八条の規定により社会福祉法人が国の助成を申請しようとするときは、申請書に次に掲げる書類を添付して社会福祉法人の主たる事務所の所在地を管轄区域とする地方厚生局長(二以上の地方厚生局の管轄区域にわたる事業(第一条の四各号に該当するものに限る)を行う社会福祉法人にあつては、厚生労働大臣)に提出しななければならない。

一 理由書

二 助成を受ける事業の計画書及びこれに伴う収支予算書

三 別に地方公共団体から助成を受け又は受けようとする場合には、その助成の程度を記載した書類

四 財産目録及び貸借対照表

2 前項に規定するもののほか、助成の種類に応じ必要な手続は、厚生労働大臣が別に定める。

3 第二条第五項の規定は、第一項の場合に準用する。

(届出)

第九条 法第五十九条の規定による計算書類等及び財産目録等(以下「届出計算書類等」という。)の届出は、次の各号に掲げる方法のいずれかにより行わなければならない。
一 書面の提供(次のイ又はロに掲げる場合の区分に応じ、当該イ又はロに定める方法による場合に限る。)

イ 届出計算書類等が書面をもつて作成されている場合 当該書面に記載された事項を記載した書面二通の提供

ロ 届出計算書類等が電磁的記録をもつて作成されている場合 当該電磁的記録に記載された事項を記載した書面二通の提供

二 電磁的方法による提供(次のイ又はロに掲げる場合の区分に応じ、当該イ又はロに定める方法による場合に限る。)

イ 届出計算書類等が書面をもつて作成されている場合 当該書面に記載された事項の電磁的方法による提供

ロ 届出計算書類等が電磁的記録をもつて作成されている場合 当該電磁的記録に記載された事項の電磁的方法による提供

三 届出計算書類等の内容を当該届出に係る行政機関(厚生労働大臣、都道府県知事及び市長をいう。以下同じ。)及び独立行政法人福祉医療機構法(平成十四年法律第六十六号)に規定する独立行政法人福祉医療機構の使用に係る電子計算機と接続された届出計算書類等の管理等に関する統一的な支援のための情報処理システムに記載する方法

(公表)

第十条 法第五十九条の二第一項の公表は、インターネットの利用により行うものとする。

2 前項の規定にかかわらず、社会福祉法人が前条第三号に規定する方法による届出を行い、行政機関等が当該届出により記録された届出計算書類等の内容を公表を行うときは、当該社会福祉法人が前項に規定する方法による公表を行ったものとみなす。

3 法第五十九条の二第一項第三号に規定する厚生労働省令で定める書類は、次に掲げる書類(法人の運営に係る重要な部分に限り、個人の権利利益が害されるおそれがある部分を除く。)とする。

一 法第四十五条の二十七第二項に規定する計算書類

二 法第四十五条の三十四第一項第二号に規定する役員名簿及び同項第四号に規定する書類(第二条の四十一第十四号及び第十五号に規定する事項が記載された部分を除く。)

(調査事項)

第十条の二 法第五十九条の二第二項、第三項及び第六項に規定する厚生労働省令で定める事項は、次に掲げる事項(個人の権利利益が害されるおそれがある部分を除く。)とする。

一 法第四十五条の二十七第二項に規定する計算書類の内容

二 法第四十五条の三十二第一項に規定する附属明細書のうち社会福祉法人会計基準第三十条第一項第十号に規定する拠点区分資金収支明細書及び同項第十一号に規定する拠点区分事業活動明細書の内容

三 法第四十五条の三十四第一項第一号に規定する財産目録の内容

四 法第四十五条の三十四第一項第四号に規定する書類(第二条の四十一第十五号に規定する事項が記載された部分を除く。)の内容

五 承認社会福祉充実計画の内容

六 その他必要な事項

(報告方法)

第十条の三 法第五十九条の二第二項及び第四項に規定する厚生労働省令で定める方法は、次に掲げる方法とする。

一 電磁的方法

二 第九条第三号に規定する情報処理システムに記載する方法

(社会福祉法人台帳)

第十一条 所轄庁は、社会福祉法人台帳を備えなければならない。

2 前項の社会福祉法人台帳に記載しなければならない事項は、次のとおりとする。

一 名称

二 事務所の所在地

三 理事長の氏名

四 事業の種類

五 設立認可年月日及び設立登記年月日

六 評議員又は役員に関する事項

七 資産に関する事項

八 その他必要な事項

(身分を示す証明書)

第十二条 法第七十条の規定により検査その他事業経営の状況の調査を行う当該職員は、その身分を示す証明書を携帯し、かつ、関係者の請求があるときは、これを提示しなければならない。

(所轄庁)

第十三条 第二条、第三条、第五条第一項、第六条第一項、第六条の十三、第六条の二十、第六条の二十一及び第十一項において所轄庁とあるのは、法第三十条に規定する所轄庁とする。

第十四条及び第十五条 削除

(法第七十七条第一項に規定する厚生労働省令で定める契約等)

第十六条 法第七十七条第一項に規定する厚生労働省令で定める契約は、次に掲げる事業において提供される福祉サービスを利用するための契約とする。

一 法第二十条第二項第二号に掲げる事業のうち、母子生活支援施設を経営する事業

二 法第二十条第三項第一号に掲げる事業

三 法第二十条第三項第二号に掲げる事業のうち、次に掲げるもの

イ 障害児相談支援事業

ロ 児童自立生活援助事業

ハ 児童家庭全戸訪問事業

ニ 養育支援訪問事業

ホ 地域子育て支援拠点事業

ヘ 子育て援助活動事業

ト 助産施設を経営する事業

チ 保育所(都道府県及び市町村が設置したもの並びに就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律(平成十八年法律第七十七号)第二条第六項に規定する認定こども園(保育所であるものに限る)を除く。)を経営する事業

リ 児童厚生施設を経営する事業

ル 児童家庭支援センターを経営する事業

ル 児童の福祉の増進について相談に応ずる事業

四 法第二十条第三項第三号に掲げる事業のうち、母子・父子福祉施設を経営する事業

五 法第二十条第三項第四号に掲げる事業のうち、次に掲げるもの

イ 老人福祉センターを経営する事業

ロ 老人介護支援センターを経営する事業

六 法第二十条第三項第四号の二に掲げる事業のうち、一般相談支援事業及び特定相談支援事業

七 法第二十条第三項第五号に掲げる事業のうち、次に掲げるもの

イ 身体障害者福祉センターを経営する事業

ロ 身体障害者の更生相談に応ずる事業

ハ 法第二十条第三項第六号に掲げる事業のうち、知的障害者の更生相談に応ずる事業

九 法第二十条第三項第九号に掲げる事業

十 法第二十条第三項第十一号に掲げる事業

2 法第七十七条第一項第四号に規定する厚生労働省令で定める事項は、次のとおりとする。

一 福祉サービスの提供開始年月日
二 福祉サービスに係る苦情を受け付けるための窓口

第十七条 削除

(情報通信の技術を利用する方法)

第十八条 令第十四条第一項の規定により示すべき方法の種類及び内容は、次に掲げる事項とする。

一 第二条の四第一項に規定する方法のうち社会福祉事業の経営者が使用するもの
二 ファイルへの記録の方法
(誇大広告が禁止される事項)

第十九条 法第七十九条に規定する厚生労働省令で定める事項は、次のとおりとする。

一 提供される福祉サービスの質その他の内容に関する事項
二 利用者が事業者者に支払うべき対価に関する事項
三 契約の解除に関する事項
四 事業者の資力又は信用に関する事項
五 事業者の事業の実績に関する事項

第二十条 令第十五条第三項に規定する選考委員会(以下「選考委員会」という。)の委員の選任に当たっては、都道府県社会福祉協議会が定める方法であつて、次の各号のいずれかに該当するものによるものとする。

一 一定の期間を指定して意見書の提出を受け付ける方法
二 あらかじめ公示した期日及び場所において意見を聴取する方法
三 前二号の方法に準ずるものとして都道府県社会福祉協議会が定める方法
(選考委員会の委員の任期)

第二十一条 選考委員会の委員の任期は、二年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

二十二条 選考委員会に、公益を代表する委員のうちから委員が選挙する委員長一人を置く。

二十三条 委員長は、会務を総理し、選考委員会を代表する。

二十四条 委員長に事故があるときは、公益を代表する委員のうちからあらかじめ委員長が指名する者が、その職務を代理する。

第二十三条 選考委員会は、委員長が招集する。

2 選考委員会は、福祉サービスの利用者者を代表する委員、社会福祉事業を営業者を代表する委員及び公益を代表する委員の各二分の一以上が出席しなければ、会議を開き、議決をすることができない。

3 選考委員会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。

(苦情の解決のあつせんの申請)
第二十四条 法第八十五条第一項に規定する申出人及び当該申出人に対し福祉サービスを提供した者(以下「当事者」という。)は、法第八十一条に規定する運営適正化委員会(以下「運営適正化委員会」という。)に対し、法第八十五条第二項に規定するあつせん(以下「あつせん」という。)の申請をすることができる。

2 前項のあつせんの申請をしようとする者は、次の事項を記載した申請書を運営適正化委員会に提出しなければならない。

一 申請者の氏名又は名称及び住所又は居所並びに法人にあつては代表者の氏名
二 当事者の一方からの申請をしようとするときは、他方の当事者の氏名又は名称及び住所又は居所並びに法人にあつては代表者の氏名
三 あつせんを求めようとする事項
四 その他あつせんを行うに際し参考となる事項
(他の当事者への通知等)

第二十五条 運営適正化委員会は、当事者の一方からあつせんの申請があつたときは、他方の当事者に対し、その旨を通知するとともに、相当の期間を指定して、当該申請に係る事件をあつせんに付することに同意するかどうかを書面をもって回答すべきことを求めなければならない。

2 前項の規定により回答を求められた者が同項に規定する期間内に回答をしなかつたときは、あつせんに付することに同意しなかつたものとみなす。

3 運営適正化委員会は、当事者の一方からあつせんの申請があつた場合において、他方の当事者がこれに同意しなかつたときは、その旨を申請者に通知しなければならない。

(あつせんへの付託等)
第二十六条 運営適正化委員会は、当事者の双方からあつせんの申請があつたとき、又は前条の規定により当事者の一方からあつせんの申請が

あつた場合において他方の当事者がこれに同意したときは、令第二十条第一項に規定する合議体(以下「合議体」という。)によるあつせんに付するものとする。ただし、運営適正化委員会は、事件がその性質上あつせんをするのに適当でないとき、又は申請者が不当な目的のみであつせんの申請をしたとき、又はあつせんに付さないことができる。

2 運営適正化委員会は、申請に係る事件をあつせんに付したときは、その旨及び当該事件のあつせんを行う合議体を構成する委員の氏名を当事者に通知しなければならない。

3 運営適正化委員会は、申請に係る事件を第一項ただし書の規定によりあつせんに付さないこととしたときは、理由を付した書面をもって当事者にその旨を通知しなければならない。

(あつせん)
第二十七条 あつせんを行う合議体は、当事者間をあつせんし、双方の主張の要点を確かめ、実情に即して事件が解決されるように努めなければならない。

2 あつせんを行う合議体は、事件が解決される見込みがないと認めるときは、あつせんを打ち切ることができる。この場合において、あつせんを打ち切ることとした理由を付した書面をもって当事者にその旨を通知しなければならない。

(指定の申請)
第二十八条 法第九十三条第一項の規定により指定を受けようとする社会福祉法人は、次に掲げる事項を記載した申請書を都道府県知事に提出しなければならない。

一 名称、住所及び事務所の所在地
二 理事長の氏名
2 前項の申請書には、次に掲げる書面を添付しなければならない。

一 定款
二 登記事項証明書
三 評議員及び役員の名、住所並びに略歴を記載した書面
四 法第九十四条に掲げる業務の実施に関する基本的な計画
五 資産の総額並びにその種類及びこれを証する書類

(名称等の変更の届出)
第二十九条 法第九十三条第四項の規定により届出をしようとする都道府県福祉人材センター

(以下「都道府県センター」という。)は、次の事項を記載した書面を都道府県知事に提出しなければならない。

一 変更後の名称、住所又は事務所の所在地
二 変更しようとする年月日
三 変更の理由
(法第九十五条の三第一項の厚生労働省令で定める場合)

第二十九条の二 法第九十五条の三第一項の厚生労働省令で定める場合は、次のとおりとする。

一 社会福祉事業等に従事しなくなった場合
二 介護福祉士の登録を受けた後、社会福祉事業等に直ちに従事する見込みがない場合
(法第九十五条の三第一項の厚生労働省令で定める事項)
第二十九条の三 法第九十五条の三第一項の厚生労働省令で定める事項は、次のとおりとする。

一 氏名、生年月日及び住所
二 電話番号、電子メールアドレスその他の連絡先に係る情報
三 介護福祉士登録簿の登録番号及び登録年月日
四 就業に関する状況

(届出の方法)
第二十九条の四 法第九十五条の三第一項及び第二項の規定による届出は、電子情報処理組織(都道府県センターの使用に係る電子計算機と届出を行う者の使用に係る電子計算機)と電気通信回線で接続したものをいう。を使用する方法により行うことができる。この場合においては、法第九十九条に規定する中央福祉人材センター(以下「中央センター」という。)を経由して行うものとする。

(法第九十五条の三第三項の厚生労働省令で定める者)

第二十九条の五 法第九十五条の三第三項の厚生労働省令で定める者は、社会福祉士及び介護福祉士法(昭和六十二年法律第三十号)第四十条第二項第一号から第三号まで及び第五号に規定する文部科学大臣及び厚生労働大臣の指定した学校及び都道府県知事の指定した養成施設並びに同条第四号に規定する学校教育法(昭和二十二年法律第二十六号)に基づく高等学校及び中等教育学校であつて文部科学大臣及び厚生労働大臣の指定したものの設置者とする。

(法第九十五条の五第一項の厚生労働省令で定める者)

第二十九條の六 法第九十五条の五第一項の厚生労働省令で定める者は、法第九十四条各号（第六号を除く。）に掲げる業務を適切、公正かつ中立に実施できる者として都道府県センターが認める者とする。

(事業計画書の提出)

第三十條 法第九十六条第一項前段の事業計画書及び収支予算書の提出は、毎事業年度開始前に(指定を受けた日の属する事業年度にあつては、その指定を受けた後遅滞なく)行わなければならない。

2 都道府県センターは、法第九十六条第一項後段の規定により事業計画書又は収支予算書を変更したときは、遅滞なく、変更した事項及びその理由を記載した書面を都道府県知事に提出しなければならない。

3 法第九十六条第二項の事業報告書及び収支決算書の提出は、毎事業年度終了後三月以内に行わなければならない。

(準用)

第三十一條 第二十八條、第二十九條及び前条の規定は、中央センターについて準用する。この場合において、これらの規定中「都道府県知事」とあるのは「厚生労働大臣」と、第二十八條第一項中「法第九十三条第一項」とあるのは「法第九十九条」と、同条第二項中「法第九十四条」とあるのは「法第百條」と、第二十九條中「法第九十三条第四項」とあるのは「法第百一條」において準用する法第九十三条第四項」と、前条第一項中「法第九十六条第一項前段」とあるのは「法第百一條」において準用する法第九十六条第一項前段」と、同条第二項中「法第九十六条第一項後段」とあるのは「法第百一條」において準用する法第九十六条第一項後段」と、同条第三項中「法第九十六条第二項」とあるのは「法第百一條」において準用する法第九十六条第二項」と読み替へるものとする。

第三十二條 法第九十四条第三項の厚生労働省令で定める約款に記載すべき事項は、次のとおりとする。

- 一 福利厚生契約の締結及び解除に関する事項
- 二 福利厚生契約に基づき実施する事業（以下「福利厚生事業」という。）の種類及び内容に関する事項

三 料金に関する事項

四 福利厚生契約を締結した社会福祉事業等を経営する者（以下「契約者」という。）の義務に関する事項

五 前各号に掲げるもののほか、福利厚生事業の実施に關し必要な事項
(福利厚生契約の締結拒絶理由等)

第三十三條 法第百五条第一項の厚生労働省令で定める正当な理由は、次のとおりとする。

- 一 福利厚生契約の申込者（以下この項において「申込者」という。）が次に規定する理由により福利厚生契約を解除され、その解除の日から起算して一年を経過しない者であること。
- 二 申込者が福利厚生契約を締結していたことがある者である場合において、その者につき、支払期限を超えてまだ支払われていない料金（当該料金の支払の遅延に伴う利息を含む。）があること。
- 三 申込者が、その申込みに關し偽りその他不正の行為を行つたこと。
- 四 法第百五条第二項の厚生労働省令で定める正当な理由は、次のとおりとする。
一 契約者が、支払期限後二月以内に料金を支払ひなかつたこと。
二 契約者が、約款に記載されている契約者の義務（料金の支払に係るものを除く。）に違反したこと。
三 契約者が、偽りその他不正の行為によつてその者の使用する社会福祉事業等に從事する者その他の者に福利厚生事業を利用させ、又は利用させようとしたこと。

第三十四條 第二十八條、第二十九條及び第三十條の規定は、福利厚生センターについて準用する。この場合において、これらの規定中「都道府県知事」とあるのは「厚生労働大臣」と、第二十八條第一項中「法第九十三条第一項」とあるのは「法第百二條」と、同条第二項中「法第九十四条」とあるのは「法第百三條」と、第二十九條中「法第九十三条第四項」とあるのは「法第百六條」において準用する法第九十三条第四項」と、第三十條第一項中「法第九十六条第一項前段」とあるのは「法第百六條」において準用する法第九十六条第一項前段」と、同条第二項中「法第九十六条第二項」とあるのは「法第百六條」において準用する法第九十六条第二項」とあるのは「法第九十六條」において準用する法第九十六條第二項」と読み替へるものとする。

三十九條中「法第九十三条第四項」とあるのは「法第百六條」において準用する法第九十三条第四項」と、同条第二項中「法第九十六条第一項前段」とあるのは「法第百六條」において準用する法第九十六條第一項前段」とあるのは「法第九十六條」において準用する法第九十六條第二項」と読み替へるものとする。

一項後段」と、同条第三項中「法第九十六條第二項」とあるのは「法第百六條」において準用する法第九十六條第二項」と読み替へるものとする。
(共同募金の期間)

第三十五條 法第百二十二條の規定による共同募金の実施期間は、厚生労働省告示で定める。
(配分委員会の組織及び運営)

第三十六條 法第百十五條第一項に規定する配分委員会（以下この条において「配分委員会」という。）は、理事長が招集する。

- 1 理事長は、配分委員会の委員の総数の三分の一以上の委員が審議すべき事項を示して配分委員会の招集を請求したときは、その請求があつた日から三十日以内に、配分委員会を招集しなければならない。
- 2 配分委員会に委員長を置く。委員長は、配分委員会において、委員のうちから選挙する。
- 3 委員長は、会務を総理する。委員長に事故があるときは、あらかじめその指名する委員が、その職務を代理する。
- 4 配分委員会は、過半数の委員が出席しなければならない。
- 5 配分委員会を開き、議決をすることができない。配分委員会の議事は、出席した委員の過半数をもつて決し、可否同数のときは、委員長の決するところによる。
- 6 前各項に定めるもののほか、配分委員会の組織及び運営に關し必要な事項は、配分委員会が定める。
(法第百十八條第一項に規定する厚生労働省令で定める特別の事情等)

第三十七條 法第百十八條第一項に規定する厚生労働省令で定める特別の事情は、次のとおりとする。

- 一 災害弔慰金の支給等に関する法律施行令（昭和四十八年政令第三百七十四号）第一条第一項に規定する災害が生じたこと。
- 二 被災者生活再建支援法施行令（平成十年政令第三百六十一号）第一条第二号又は第三号に規定する自然災害が生じたこと。
- 三 準備金に繰り入れて三年が経過したこと（当該共同募金の区域内において社会福祉を目的とする事業を經營する者に配分する場合に限る。）。

二 百分の三
三 当該共同募金の寄附金の額に占める法人からの寄附金の額の割合

第三十八條 削除

第三十九條及び第四十條 削除

(フレキシブルディスクによる手続)

- 第四十一條** 次に掲げる書類の提出については、これらの書類に記載すべき事項を記録したフレキシブルディスク並びに申請者又は届出者の名称及び主たる事務所所在地並びに申請又は届出の趣旨及びその年月日を記載した書類を提出することによつて行うことができる。
- 一 第二条第一項に規定する申請書及び定款
 - 二 第二条第二項第三号に規定する事業計画書及び収支予算書
 - 三 第三条第一項に規定する申請書
 - 四 第四条第二項において読み替へて準用される第三条第一項に規定する届出書
 - 五 第三条第一項第二号（第四条第二項において準用される場合を含む。）に規定する定款
 - 六 第三条第二項第三号に規定する事業計画書及び収支予算書
 - 七 第三条第三項に規定する書類
 - 八 第五条第一項に規定する申請書
 - 九 第五条第一項第二号に規定する財産目録及び貸借対照表
 - 十 第六条第一項に規定する申請書
 - 十一 第六条第一項第二号に規定する定款
 - 十二 第六条第一項第三号に規定する財産目録及び貸借対照表
 - 十三 第六条第一項第四号に規定する財産目録
 - 十四 第六条第一項第四号ロに規定する事業計画書及び収支予算書
 - 十五 第六条第一項第四号ニからトまでに規定する書類
 - 十六 第八条第一項に規定する申請書
 - 十七 第八条第二項第一号に規定する理由書
 - 十八 第八条第一項第二号に規定する計画書及び収支予算書
 - 十九 第八条第一項第三号に規定する書類
 - 二十 第八条第一項第四号に規定する財産目録及び貸借対照表
- (フレキシブルディスクの構造)
- 第四十二條** 前条のフレキシブルディスクは、産業標準化法（昭和二十四年法律第八十五号）に基づく日本産業規格（以下「日本産業規格」という。）に準拠して作成するものとする。

という。)X六二二三号に適合する九十ミリメートルフレキシブルディスクカートリッジでなければならぬ。

(フレキシブルディスクへの記録方式)

第四十三条 第四十一条のフレキシブルディスクへの記録は、次に掲げる方式に従つてしなければならない。

- 一 トラックフォーマットについては、不正競争防止法等の一部を改正する法律(平成三十年法律第三十三号)第二条の規定による改正前の工業標準化法に基づく日本工業規格X六二二四号又は日本産業規格X六二二五号に規定する方式
- 二 ボリューム及びファイル構成については、日本産業規格X〇六〇五号に規定する方式(フレキシブルディスクに貼り付ける書面)

第四十四条 第四十一条のフレキシブルディスクには、日本産業規格X六二二三号に規定するラベル領域に、次に掲げる事項を記載した書面を貼り付けなければならない。

- 一 申請者又は届出者の名称
- 二 申請年月日又は届出年月日

附 則

1 この省令は、公布の日から施行し、昭和二十六年六月一日から適用する。

2 社会事業法施行規則(昭和十三年厚生省令第十四号)は、廃止する。

6 障害者自立支援法第五条第二十六項に規定する地域活動支援センター又は小規模作業所(障害者基本法(昭和四十五年法律第八十四号)第二条第一号に規定する障害者の地域社会における作業活動の場として同法第十八条第三項の規定により必要な費用の助成を受けている施設をいう。)が、平成二十年四月一日から平成二十四年三月三十一日までの間に障害福祉サービス事業を開始した場合における第一条第二号の適用については、「第三十七条」とあるのは、「附則第五条第二項において読み替えて適用する第三十七条」と、「離島その他の地域であつて厚生労働大臣が定めるもののうち、将来的にも利用者の確保の見込みがないとして都道府県知事が認めるもの」とあるのは、「将来的にも利用者の確保の見込みがないとして都道府県知事が認める地域」とする。

7 社会福祉法人がその設置する幼保連携施設(就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律の一部を改正する

法律(平成二十四年法律第六十六号)附則第三条第一項に規定する幼保連携施設に限る。)について同項の規定により同法による改正後の就学前の子どもに関する教育、保育等の総合的な提供の推進に関する法律第十七条第一項の設置の認可があつたものとみなされた場合における第四条第一項の規定の適用については、同項中「次のとおり」とあるのは、「法第三十一条第一項第一号から第三号まで及び第十一号に掲げる事項のほか、次のとおり」とする。

附 則 (昭和二十九年四月一日厚生省令第七号)
この省令は、公布の日から施行する。

附 則 (昭和四〇年一月一九日厚生省令第三号)
この省令は、公布の日から施行する。

附 則 (昭和五一年二月二六日厚生省令第四号)
この省令は、昭和五十一年三月十日から施行する。

1 この省令は、昭和五十一年三月十日から施行する。
2 当分の間、法第四十一条第一項に規定する厚生省令で定める事項は、改正後の第二条の第二項に定める事項のほか、この省令の施行に伴い変更を要する法第二十九条第一項第十二号に掲げる事項とする。
3 この省令の施行前にした定款変更の申請については、なお従前の例による。

附 則 (昭和五二年五月二五日厚生省令第二一〇号)
この省令は、公布の日から施行する。

附 則 (昭和五三年三月二五日厚生省令第一〇号)
この省令は、昭和五十三年四月一日から施行する。
附 則 (昭和五八年五月二五日厚生省令第二六号)
この省令は、公布の日から施行する。

1 この省令の施行前にした定款変更の申請については、なお従前の例による。
附 則 (昭和五九年二月二五日厚生省令第六号)
この省令は、公布の日から施行する。

附 則 (昭和六二年一月三一日厚生省令第八号) 抄
この省令は、昭和六十二年四月一日から施行する。

附 則 (平成二年二月二八日厚生省令第五九号) 抄
この省令は、昭和六十二年四月一日から施行する。

1 この省令は、平成三年一月一日から施行する。

附 則 (平成三年三月二六日厚生省令第一四号)
この省令は、平成三年四月一日から施行する。

附 則 (平成四年一月二六日厚生省令第六七号)
この省令は、社会福祉事業法及び社会福祉施設職員退職手当共済法の一部を改正する法律(平成四年法律第八十一号)の一部の施行の日(平成四年十二月一日)から施行する。

附 則 (平成五年三月二五日厚生省令第九号)
この省令は、平成五年四月一日から施行する。

附 則 (平成六年三月三〇日厚生省令第二〇号)
この省令は、公布の日から施行する。ただし、第一条の三第一号の改正規定は、平成六年四月一日から施行する。

附 則 (平成九年三月一九日厚生省令第一二二号)
この省令は、平成九年四月一日から施行する。(施行期日)

1 この省令は、平成九年四月一日から施行する。(経過措置)
2 この省令の施行の際改正前の様式により使用されている書類は、改正後の様式によるものとみなす。

附 則 (平成二二年三月二八日厚生省令第四〇号)
この省令は、平成二二年四月一日から施行する。

附 則 (平成二二年三月二九日厚生省令第五三三号) 抄
この省令は、公布の日から施行する。

附 則 (平成二二年六月七日厚生省令第一〇〇号) 抄
この省令は、公布の日から施行する。

附 則 (平成二二年一〇月二〇日厚生省令第一二七号) 抄
この省令は、公布の日から施行する。

1 この省令は、内閣法の一部を改正する法律(平成十一年法律第八十八号)の施行の日(平成十三年一月六日)から施行する。

1 この省令は、公布の日から施行する。

(様式に関する経過措置)
3 この省令の施行の際現にあるこの省令による改正前の様式(次項において「旧様式」という。)により使用されている書類は、この省令による改正後の様式によるものとみなす。

4 この省令の施行の際現にある旧様式による用紙については、当分の間、これを取り繕つて使用することができる。

附 則 (平成二二年一〇月二三日厚生省令第一二八号) 抄
この省令は、平成十三年四月一日から施行する。(施行期日)

附 則 (平成二二年一月二〇日厚生省令第一三三三号) 抄
この省令は、平成十二年十二月一日から施行する。ただし、第二条第二項第一号の改正規定及び次項の規定は、公布の日から施行する。

附 則 (平成一三年三月二六日厚生省令第三六号) 抄
この省令は、書面の交付等に関する情報通信技術の利用のための関係法律の整備に関する法律の施行の日(平成十三年四月一日)から施行する。

附 則 (平成一四年三月二六日厚生省令第三八号) 抄
この省令は、平成十四年四月一日から施行する。

附 則 (平成一七年三月七日厚生労働省令第二五号) 抄
この省令は、平成一七年三月七日から施行する。

附 則 (平成一八年九月七日厚生労働省令第一五五号) 抄
この省令は、平成一八年十月一日から施行する。

附 則 (平成一八年九月二九日厚生労働省令第一六九号)
この省令は、平成一八年十月一日から施行する。

附 則 (平成一九年三月三〇日厚生労働省令第四〇号)
この省令は、平成一八年十月一日から施行する。

1 この省令は、公布の日から施行する。

附 則 (平成一九年三月三〇日厚生労働省令第四〇号)

この省令は、平成十九年四月一日から施行する。

附則（平成一九年二月五日厚生労働省令第一四四号）抄

この省令は、公布の日から施行する。

附則（平成一九年二月二五日厚生労働省令第一五二号）抄

この省令は、平成十九年十二月二十六日から施行する。

附則（平成二〇年三月三日厚生労働省令第二六号）抄

1 この省令は、平成二十年四月一日から施行する。

（経過措置）

2 この省令の施行前に、第一条の規定による改正前の社会福祉法施行規則（以下「旧規則」という。）第十三条に規定する所轄庁に到達した旧規則第二条第一項、第三条第一項若しくは第六条第一項の規定に基づく認可の申請又は旧規則第五条第一項の規定に基づく認可若しくは認定の申請で、この省令の施行の際現にこれらに対する認可若しくは認定又は認可若しくは認定の拒否の処分がされていないものの処理を行う所轄庁については、当該処分がある日までの間は、なお従前の例による。

3 前項の場合において、当該処分に係る厚生労働大臣の権限の委任については、第一条の規定による改正後の社会福祉法施行規則第三十八条第一項第二号、第三号、第四号（法第四十三条第一項に係る部分に限る。）、第六号（法第四十六条第二項に係る部分に限る。）及び第七号の規定にかかわらず、なお従前の例による。

4 この省令の施行の際現にあるこの省令による改正前の様式による用紙については、当分の間、これを取り繕って使用することができる。

附則（平成二〇年三月三一日厚生労働省令第八四号）抄

（施行期日）
第一条 この省令は、平成二十年四月一日から施行する。

附則（平成二〇年一月二八日厚生労働省令第一六三号）抄

（施行期日）
第一条 この省令は、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律の施行の日（平成二十年十二月一日）から施行する。

附則（平成二二年三月一六日厚生労働省令第三七号）抄

（施行期日）
第一条 この省令は、平成二十一年四月一日から施行する。

附則（平成二二年三月三一日厚生労働省令第八八号）抄

この省令は、平成二十一年四月一日から施行する。

附則（平成二三年八月五日厚生労働省令第一〇二号）抄

この省令は、障害者基本法の一部を改正する法律の施行の日（平成二十三年八月五日）から施行する。

附則（平成二三年八月三〇日厚生労働省令第一〇七号）抄

（施行期日）
第一条 この省令は、公布の日から施行する。

（経過措置）

第二条 この省令の施行の際現に交付されている第一条の規定による改正前の様式第一号による証明書については、当分の間、同条の規定による改正後の別記様式による証明書とみなす。

附則（平成二三年九月二日厚生労働省令第一一六号）抄

この省令は、平成二十三年十月一日から施行する。

附則（平成二三年一〇月七日厚生労働省令第一二七号）抄

（施行期日）
第一条 この省令は、平成二十四年四月一日から施行する。

附則（平成二三年二月二一日厚生労働省令第一四九号）抄

この省令は、公布の日から施行する。

附則（平成二四年三月二八日厚生労働省令第四〇号）抄

（施行期日）
第一条 この省令は、平成二十四年四月一日から施行する。

附則（平成二五年一月一八日厚生労働省令第四号）抄

この省令は、平成二十五年四月一日から施行する。

附則（平成二五年一月二二日厚生労働省令第一二四号）抄

（施行期日）
第一条 この省令は、平成二十六年四月一日から施行する。

附則（平成二六年九月三〇日厚生労働省令第一一五号）抄

（施行期日）
1 この省令は、平成二十六年十月一日から施行する。

附則（平成二七年三月三一日厚生労働省令第五五号）抄

（施行期日）
1 この省令は、平成二十七年四月一日から施行する。

附則（平成二七年三月三一日厚生労働省令第七三号）抄

（施行期日）
1 この省令は、子ども・子育て支援法の施行の日（平成二十七年四月一日）から施行する。

附則（平成二八年三月三一日厚生労働省令第七八号）抄

（施行期日）
第一条 この省令は、平成二十八年四月一日から施行する。

附則（平成二八年一月二一日厚生労働省令第一六八号）抄

（施行期日）
第一条 この省令は、平成二十九年四月一日から施行する。

附則（令和元年五月七日厚生労働省令第一号）抄

（施行期日）
第一条 この省令は、公布の日から施行する。

（経過措置）

第二条 この省令による改正前のそれぞれの省令で定める様式（次項において「旧様式」という。）により使用されている書類は、この省令による改正後のそれぞれの省令で定める様式によるものとみなす。

2 旧様式による用紙については、合理的に必要と認められる範囲内で、当分の間、これを取り繕って使用することができる。

附則（令和元年六月二八日厚生労働省令第二〇号）抄

（施行期日）
第一条 この省令は、不正競争防止法等の一部を改正する法律の施行の日（令和元年七月一日）から施行する。

附則（令和元年九月一三日厚生労働省令第四六号）抄

（施行期日）
第一条 この省令は、成年被後見人等の権利の制限に係る措置の適正化等を図るための関係法律

の整備に関する法律（令和元年法律第三十七号）の施行の日（令和元年九月十四日）から施行する。

附則（令和二年三月二四日厚生労働省令第三五号）抄

（施行期日）
1 この省令は、公布の日から施行する。

（経過措置）

2 この省令による改正後の社会福祉法施行規則の規定は、令和二年三月三十一日以後に終了する会計年度に係る計算関係書類についての会計監査報告について適用し、同日前に終了する会計年度に係る計算関係書類についての会計監査報告については、なお従前の例によるものとする。

